

令和5年度

会誌

第58号

広島県高等学校教育研究会
英語部会

英語部会会誌 58号

目次

巻頭言

会誌第58号の発刊にあたって 広島県立安芸府中高等学校 高橋 真・・・3

寄稿

即興で伝える力を育てるために 広島県立戸手高等学校 戸成 詩織・・・4

英語で学校紹介プロジェクトの取組について 広島県立観音高等学校 常村 澄恵・・・10

事業報告

- 1 第60回広島県高等学校教育研究会英語部会定期総会・研究大会・・・15
- 2 第20回広島県高校生英語スピーチ・レシテーションコンテスト・・・31
- 3 第60回広島県高等学校英作文コンテスト・・・43
- 4 第15回広島県高校生英語ディベート大会・・・46
- 5 第16回中国地区高等学校英語スピーチコンテスト・・・53
- 6 英語部会の事業・自己研修に関する意識調査アンケート結果・・・56

資料

- 1 各地区における研究授業の実施について・・・67
- 2 生徒作品・・・68
- 3 令和5年度広島県教育研究会英語部会概要・・・73
- 4 広島県高等学校教育研究会英語部会会則・・・74

会誌第 58 号の発刊にあたって

広島県高等学校教育研究会英語部会 会長

広島県立安芸府中高等学校 校長 高橋 真

英語部会会員の皆様におかれましては、本部会の研究活動に対し、御理解と御協力を賜り、心より感謝申し上げます。

本部会は、英語教育に係り広島県教育委員会の御指導のもと、学習指導要領の法令に則り、自主的・創造的な教育活動を行い、本県の高等学校、特別支援学校及び高等専門学校教育関係者の資質の向上への寄与と学校教育の振興を図ることを目的としております。令和5年度は、私の勤務校である安芸府中高校に設置した事務局を中心に6つの地区の理事、庶務、幹事等の役員及び各会員の皆様とともに、次の3本の達成目標を掲げ、教員の指導力向上及び生徒の英語力向上に資する研究活動を進めてまいりました。

ア 学びの変革の趣旨（主体的、対話的で深い学び）を踏まえた授業展開や教材開発を行っている。

イ 学びの変革（主体的、対話的で深い学び）と関わりのある内容について研究・研修を行っている。

ウ 高校生育成事業に応募する学校・生徒の数を増加させる。

上記アについては、2学期に6地区の高等学校において公開研究授業を実施していただきました。

また、イについては、8月に安芸府中高校の加藤教諭を講師に部会員を対象とした研修会を開催しました。

そして上記ウについては、10月に、県内の高校生を対象として、英語スピーチ・レシテーションコンテスト（オンライン）、英作文コンテスト、英語ディベート大会の3つの大会を実施しました。いずれの大会においても質的な向上が見られ、英語ディベート大会では、尾道東高校の英語ディベート部が三連覇と言う快挙を成し遂げました。このような活躍を見るにつけ、新型コロナウイルス感染症の第5類扱いへの移行も追い風となり、今後は更にこれらの高校生育成事業が活発化していくと確信しました。

本会誌には、研究活動の成果を広く還元するため、各地区で実施された公開研究授業や研究大会など、今年度の研究内容や実践例を収録しております。所属校での日々の実践に役立てていただければ幸いです。

最後になりましたが、今年度の研究活動において、県や各地区の事務局校の役員として、また、研修会や高校生育成事業の3つの大会の審査員や運営担当者として携わっていただいたすべての関係者の方々に感謝申し上げます。本部会としましては、今後も、広島県教育委員会の指導・助言を得て、研究内容の質的な向上を目指すとともに、会員の皆様を対象としたアンケート調査の結果等を参考にして、研究活動のさらなる充実・発展に努めてまいります。引き続き、会員の皆様の御理解と御協力をいただきますようよろしくお願いいたします。

即興で伝える力を育てるために

広島県立戸手高等学校
教諭 戸成 詩織

1. 対象となる生徒について

・2学年 英語コミュニケーションⅡ(4単位) 選択者

2年次の英語コミュニケーションⅡは、4単位と2単位のいずれかを選択することになっている。4単位を選択する生徒は、進学希望者のうち、入試で英語の試験がある、あるいは、語学系の専門学校への進学を考えている者を対象としている。習熟度別の展開はしていない。

・現在選択している生徒は、英語を得意・やや得意とする生徒と苦手とする生徒が混在している。既習の語彙や文法が定着しておらず、英語を用いて表現することに課題を抱える生徒が多い。一方で、分からない表現を調べ、他の生徒と相談するなど、自分の考えをなんとか英語で伝えようとする姿勢がみられる。

・担当クラスは、ペアワークに抵抗なく取り組み、音読など声がよく出る生徒が多い。また、自分の意見を持っていて、表現活動に意欲的に取り組んでいる。

2. 指導の過程

本格的にやり取りの言語活動を始めたのは、今年度の2学期からだったため、夏季休業中から2学期末までの取組みを紹介する。

①夏季休業中

〈パフォーマンステストの内容についてこだわったこと〉

授業で学んだ内容や表現を活用できる質問にすること。

〈評価基準について留意したこと〉

- ・ミスに気にせず、即興で伝えることを重視したいので、文法や発音の正確性は評価対象としないこと。
- ・無言の状況をなくすため、間をつなぐ表現や質問を聞き返す表現を活用することを評価項目に入れること。これは、英検受験予定者が二次面接で活用することも想定した。
- ・「主体的に学習に取り組む態度」は、授業内での活動やパフォーマンステストについての振り返りシートで評価すること。

②パフォーマンステスト実施までの取組み

*Quick Answer Training とは、授業内で、即興で答えるための練習として行った活動のこと。

時期	授業内での指導 (*Quick Answer Training)	パフォーマンステスト
九月初旬 ～ 二学期中間 調査前	<p>〈内容〉 英検準2級の二次試験における Q4を参考に質問を作成し、生徒同士でQ&Aのやり取りを行った。(計5回)</p> <p>〈指導〉 ・聞き返しの表現や間をつなぐ方法を指導した。 ・自分の考えを伝えるときに便利な表現として、教科書で学習した“It is ～ to do.”の表現を活用できるよう、使い方を指導した。 ・振り返りシートに、①自分が立てた今日の目標に対する振り返り(できたこととできなかったこと)と、②言いたかったけど言えなかったことを生徒が記入。それを読み、アドバイスなど適宜記入した。複数の生徒が課題と感じていることについては、授業時に全体で共有した。</p>	<p>〈内容〉 教員が英語で質問をし、生徒が英語で自分の考えを伝える。「2つ以上自分の考えを伝えること」、「無言の間を作らないよう即興で答えること」が全体の目標。</p> <p>〈質問〉 ・ Lesson 5 Universal Design: Convenient for All を読み終えた際、題材に関連する3つの質問に対し、自分の考えをワークシート上に表現した。 ・そこで用いた表現を活用できるよう、類似した質問をパフォーマンステスト用に作成し、そのうちの1つを生徒に質問した。 ・パフォーマンステスト用の質問は、生徒へ事前に知らせず、テストの際にどの質問をするかはランダムで決めることで、即興で答えられるかどうかを評価した。</p>

十一月下旬 ～ 二学期期末 末 考 査 前	<p>〈内容〉</p> <ul style="list-style-type: none"> ・前回の内容に加え、追加の質問をし、やり取りを1分間継続した。(計5回) ・今回は、2人1組のペアワークだったが、今回は、3～4人のグループで、質問者が複数人となるようにした。 ・追加でする質問は、あらかじめいくつか考えさせた。 <p>〈指導〉</p> <ul style="list-style-type: none"> ・前回と同様に行った。 ・追加の質問に困っているグループには、質問の例として、教員から生徒に対して質問をした。 	<p>〈内容〉</p> <ul style="list-style-type: none"> ・Lesson 6 Wakamiya Masako: The World's Oldest Game App Developer を読み終えた際、題材に関連する3つの質問に対し、自分の考えをワークシート上に表現した。 ・パフォーマンステストでは、その質問のうち1つを最初の質問として、教員がランダムに質問した。 ・その後、生徒の回答に応じて、教員が追加の質問をし、やり取りを1分間継続した。 ・最初の質問は事前に分かっている状態にすることで、その後の追加質問に即興で答えられるかどうかという点について評価することを重視した。
---	---	---

〈2学期パフォーマンステストにおける成果と課題〉

成果	<ul style="list-style-type: none"> ・英語を用いて、自分の考えを即興で答えることに慣れてきた。 ・英語の得意・不得意にかかわらず、単語やフレーズでも、自分の考えを伝えるという姿勢が身についた。また、お互いためらわず表現できる雰囲気があった。 ・2学期当初は、質問が理解できなかったり言いたいことが言えなかったりする場合には、日本語を使う生徒が多かったが、英語で聞き返したり間をつないだり、英語でのコミュニケーションを継続しようとする生徒が増えた。
課題	<ul style="list-style-type: none"> ・追加の質問に対して、Yes / No で回答が終わってしまう、疑問詞を用いた質問への回答に困る、という生徒が多くみられた。 ・調べて用いた表現が難しく、生徒同士でのやり取りでは、聞き手が理解できない場合があった。

③ 12月8日 公開研究授業

②の課題を踏まえて、「自分の考えを分かりやすく伝えるにはどうすればよいか」について理解することを目標にした授業を行った。授業展開や使用したワークシート、授業内における生徒の考えなど、詳細については資料に示している通り。

3. 今後の指導について

研究授業において、生徒が得られた気づきを単元末パフォーマンステストで活用できるよう、授業内での指導を丁寧に行っていくこと、言語活動における生徒の声（生徒自身が表現したもの）を用いて、フィードバックを行っていくことに留意して指導をすすめていきたい。また、これまでの指導では、内容の深まりという点において十分指導ができていないため、表現方法だけにとらわれないよう、生徒の思考を深める指導についても改善を行っていきたい。

【資料1】12月8日実施 公開研究授業指導案(一部抜粋)と生徒による表現例

教材名 BIG DIPPER English Communication II (数研出版)

単元名 Lesson 9 The Sharing Economy: Something for everyone?

単元の目標 自分の暮らす地域の人々が生活により満足するために、どのサービスをおすすめしたいか、自分の考えを相手に分かるように伝えることができる。

本時の目標 相手に分かるように、表現等を工夫して伝えることができる。

	学習内容と学習活動	教師の指導・支援	評価規準
導入	本時の活動を説明する		一斉に記録に残す評価は行わないが、目標に即して生徒の活動の状況を見届け指導に活かすことは行う。
展開1	グループ活動 ・3~4人のグループで、「メルカリを利用したいか」について、1人が回答者、その他が質問者としてやり取りをする(1分×4回) ・グループ全員の発表が終わったら、各自、「追加で質問されたこと」と「それに対してどう答えたか」を記録する(4分) ・グループ内で「どういうことを工夫すれば相手により理解してもらえるか」気付いたことを話し合う(4分)	○適宜グループ活動に参加し、生徒に質問する、または、生徒の質問を別の表現で言い換えて、回答者の質問理解を支援する。 ○気づきを日本語で話し合わせる ○グループ内での英語による発表で、理解につながる表現の工夫があったと感じたものがあれば、全体でも共有する ○グループで出た意見をスライドに入力させる	
展開2	①振り返り(全体) ・各グループで出た意見を共有する ②振り返り(個人) ・自分が表現したことについて、改善できる点を考える	○日本語で出てきた意見を踏まえ、英語で表現する際に活用できる語句等を共有する	
展開3	展開1と同じグループ活動 ・グループのメンバーを変える ・展開2での振り返りを活かす	○生徒の発言ややり取りに変容があるか注意深く観察する	
まとめ	・今日の振り返りを記入(個人) ・パフォーマンス課題の予告	○1回目と2回目のグループ活動で変化したと思うことについて振り返りを記述する	

授業者からの全体フィードバック(使用したスライド)

What is important to tell your ideas clearly?

- ・ お互いに習ったことがある、知っている単語や文法
- ・ 簡潔な文(長すぎない・複雑ではない)
- ・ 2文(以上)で説明

【具体例を言いたい】 For example, . . .

【理由などを追加したい】 Also, . . .

【複数の考えや説明を言いたい】 First, ... Second, ... Third, ...

展開1と展開3での回答内容の変化

	展開1	展開3	変容
生徒A	No, I don't. It doesn't have new things, and even if I buy something there, it won't arrive right away.	No, I don't. It's because it doesn't have new things. If I buy something there, it won't arrive right away. Also, I can't see real things.	“It's because” や “Also” を使って、展開を分かりやすく工夫した。 “even if” を “If” 一語にまとめ、聞き手に伝わりやすくした。
生徒B	Yes, I do. It's because when I'm in a position to sell, I can get money and someone can use again. When I'm in a position to buy, someone is in good condition and cheap.	Yes, I do. First, I can get money. Second, someone can use again. Third, some of the items are in good condition and cheap.	言いたいことを簡潔にまとめた。 “First” “Second” “Third”を用いて、言いたいことを整理した。
生徒C	Yes, I do. It's because I can buy many goods at a reasonable price. I can talk with the exhibitor on chat. For example, I can ask a question about goods and markdown.	Yes, I do. It's because I can buy many goods at a cheap price. Also, I can talk with a person who sell goods. For example, I can ask a question about goods and markdown.	exhibitor という単語を、分かりやすい表現に言い換えた。
生徒D	Yes, I do. Because I can trade easily and safely. I think it's good as long as it's easy and safe.	Yes, I do. Because I can trade easily and safely. For example, I can shop at home even if I am not feeling good.	理由について、具体的な説明を加えることができた。

生徒の変化についての気づき

- ・ “First” “Second”のディスコースマーカーを使用するようになった生徒が多かった。
- ・ 具体例を加えるという工夫を取り入れた生徒も多く見られた。
- ・ ある生徒は、自分と反対の意見を提示しながら、自分の意見を展開していた。
- ・ 展開や、用いられている語彙や文法が分かりやすくなったおかげで、聞き取ることが出来る内容が増えたと感じる生徒が複数いた。用いられている表現が易しかっただけでなく、話し手が、要点を整理できたことが効果的だったようだ。
- ・ 形式的な工夫だけでなく、内容的な広がりや深まりを意識させたい。

単元末パフォーマンス課題

次の質問から始まる英語での質疑応答を1分間継続する(教員対生徒)。

生徒の回答に応じて、教員から追加の質問をする。

Which service will you recommend to local people to make them satisfied with their lives?

【1】 TABETE(お店で余ってしまった食品と、余ってしまった食品をレスキューしたい買い手をつなぐ)

【2】 ストアカ(教えたいと学びたいをつなぐまなびのマーケット)

【3】 まちなか留学 HELLO WORLD!(「海外留学に行きたくてもいけない子どもたち」と「在日外国人ファミリー」をつなぐ)

Lesson 9 The Sharing Economy: Something for Everyone?

No.1

GOAL Be able to make yourself understood in English clearly.



【Question】 Do you want to use mercari?

Information about mercari



Your Answer ⇒ (Yes, I do. / No, I don't.)

Additional Questions (友達に追加で質問したいこと)

【YES】	【NO】

Lesson 9 The Sharing Economy: Something for Everyone?

No.2

What did your friends ask you?

質問されたこと	自分の回答

★ What is important to tell your ideas clearly in English?

友達の応答を聞いて、分かりやすく伝える工夫として参考にしたい点を探そう!

Friend's name	Good points



Improve your answer

(Yes, I do. / No, I don't.)

.....

.....

.....

.....

Review today's lesson

.....

.....

.....

.....

英語で学校紹介プロジェクトの取組について

広島県立広島観音高等学校

常村 澄恵

1. はじめに

本年度より広島観音高等学校で勤務しており、担当する科目の中に「総合英語研究」という学校設定科目がある。2年次の選択科目で、英語が好きな生徒が選択している授業でなおかつ、比較的自由度の高い科目であるため、本年度、生徒と楽しく何か形に残るものを作りたい、と考えて実施した授業実践報告である。普段の授業の中での個人的な取組であるが、実践したことについての取組内容と成果・課題を先生方と共有することを目的として報告する。

「英語で広島観音高校紹介ホームページプロジェクト」と名付けて、実践を行った。このプロジェクトを考えた背景には、前任校でホームページの担当をしており、以前より何らかの形で生徒がホームページに関わることができないか、と考えていた。広島観音高等学校のホームページには英語での学校紹介のページがなかったため、生徒目線で学校を紹介するミニコーナーのような記事があっても面白いのではないかと思ったからである。また、本年度の異動で本校にやってきた私よりも、生徒たちの方が広島観音高等学校をよく知っていると思ったので、私自身も生徒たちから教えてもらえるのではないかと思い、取組を行うことにした。

2. 実施クラス

総合英語研究（選択科目） 2年次生 12名

本校の総合英語研究は、「英語学習の特質を踏まえ、聞くこと、読むこと、話すこと [やり取り]、話すこと [発表]、書くことの5つの領域を通して情報や考えなどを的確に理解したり適切に表現したり伝えあったりするコミュニケーションを図る資質・能力の育成を目指すことを目標とした学校設定科目である。

3. 授業での取組

1学期の取組

「英語で広島観音高校紹介ホームページプロジェクト」と名付けて、生徒一人一人に Google ドキュメントで作成して提出するように課題を設定した。課題の締め切りは、途中で文化祭や合唱祭等の学校行事が続いたため、課題を提示してから約1か月後とした。授業中には紹介したいことを Google フォームで回答させ、テーマは他の人と重なっていてもよいこととした。生徒の入力回答の結果は以下の通りである。

<観音高校でイチオシポイントは？> 回答例	<自分が紹介したいことは？> 回答例
<ul style="list-style-type: none"> ・制服がかわいい ・自分の進路に向けての勉強できる ・総合学科 ・文武両道！ ・食堂のご飯の美味しさと自販機の飲み物のバリエーション 	<ul style="list-style-type: none"> ・セーターやベストの色が選べる。 ・総合学科なので普通科と違って自分の将来に合った教科を選択できること。 ・移動授業が多いので人脈が広がる。 ・2年生と3年生になったら自分で時間割を作れるこ

ーション	と ・各部活動の活発なとこ ・食堂のご飯
------	------------------------------------

作成の条件としては、写真またはイラストと英文を必ず入れる（写真に人物が入っている場合は必ず許可をとること）こととし、その他、語数や写真の内容等の決まりは特に設けなかった。また授業の中で特別に時間を割いて取組を行わず、まずは自由に生徒にページを作ってもらうことを第一の目的として、課題形式にした。

作品提出後はALTの先生に添削してもらって生徒に返却した。生徒の作品を印刷したものをALTの先生に渡して添削してもらった。1学期の最後の授業でALTの先生からも直接授業でコメントをもらい、生徒たちに返却し、クラスの他の生徒の作品を鑑賞した。

2学期の取組

本格的にホームページに掲載してもらえそうな記事を作るため、1学期の個人で作成したものをもとに、4グループ（①部活動、②制服、③学校の歴史+総合学科、④食堂）に分かれて、再度記事の作成をした。

1学期は個人での作成だったため、授業内での時間を取らず、課題形式で実施したが、2学期は授業の中で、グループごとに作成を進める時間を設けた（毎時間15分程度5回）。

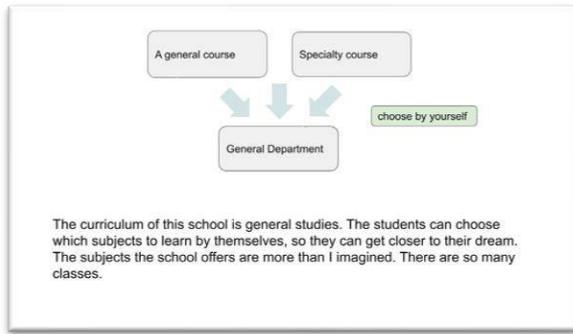
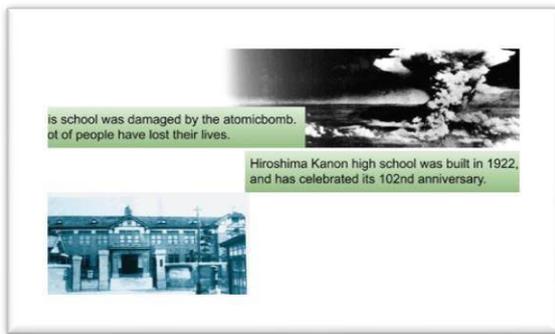
2学期のグループでの作成条件としては、「広島観音高等学校を全く知らない（外国）人に紹介する」「100語程度+写真を数枚」という2つの条件を新たに加えた。また、1学期はドキュメントで作成するように指示したが、2学期はドキュメントではなくスライドでの作成の指示に切り替えた。PDF形式で掲載してもらうことを想定していたので、グループにつき、スライドは2枚までとした。

グループで作成後、再度ALTの先生に確認してもらった。ALTの先生の新たなアドバイスとともに返却し、推敲に役立てるように指示した。

4. 生徒の作品

ALTの先生のアドバイスを元に作成し直しているうちに、よりよい物を作りたい気持ちが強くなり、現時点ではまだ完成できていないグループもあるため、一部の生徒の作品のみここでは掲載することとする。



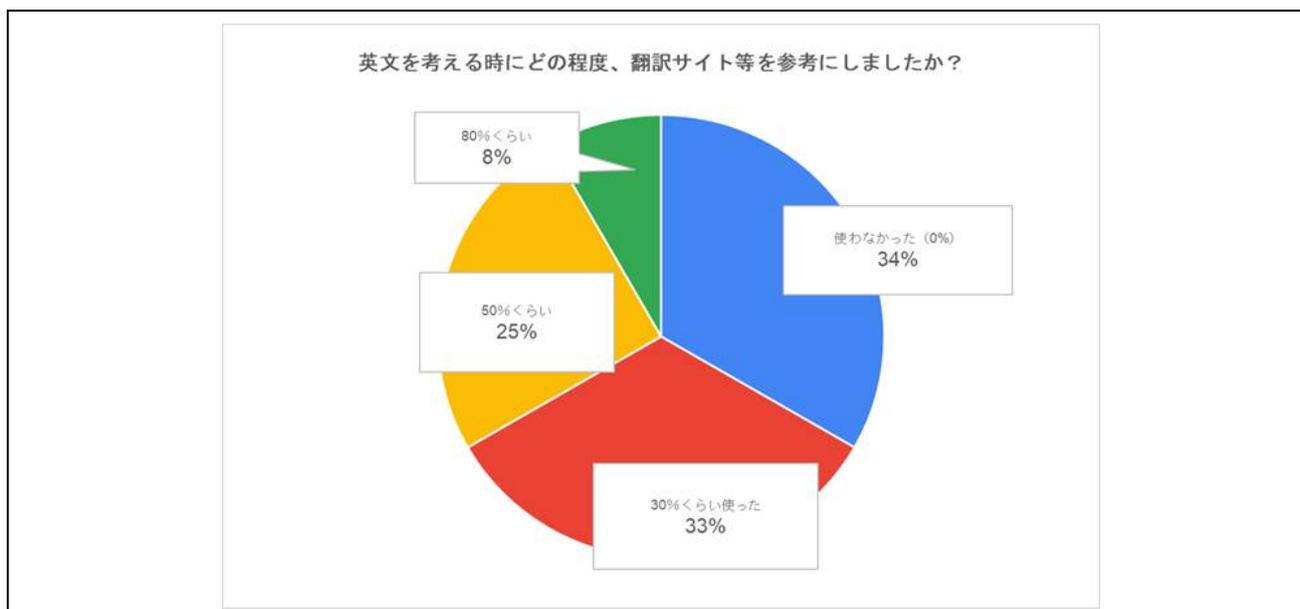


5. 取組の成果と課題

現時点で最終の修正を行っている生徒もいるが、このプロジェクトの取組について、生徒にアンケートを行った。アンケートの結果（主なものを抜粋）も踏まえ、取組の成果と課題についてまとめてみたい。

<生徒のアンケートより>

1. ホームページプロジェクトの中でどんなところを工夫しましたか？
<ul style="list-style-type: none"> ・ 図や写真を用いたこと ・ 同じ単語を使いすぎないようにした ・ 色を合わせて見やすいホームページになるように意識した ・ ブヨ先生（ALT の先生）のアドバイスで全ての部活から抜粋することを指摘され、実行したかつ、多い部員順にピックアップした。 ・ 見る人の興味を引くようにつくること
2. 自分の作ったホームページでどんなところをよく見てもらいたいですか？
<ul style="list-style-type: none"> ・ 観音高校の部活はたくさんあって、生徒たちが多様な楽しみを放課後に行っていること、自分自身部活が学校生活で大きな楽しみであり、文武のモチベーションになっているのを伝えてページを閲覧者に見てもらいたい。 ・ 説明の文章を読みやすくなるように協力して考えたので、読んで欲しい
3. 一人でホームページの原稿を作ったときとグループで原稿を作ったときで何か違いはありますか？よかったこと、困ったことなど自由に教えてください。
<ul style="list-style-type: none"> ・ 字や写真の配置をどうしたらいいか迷った ・ みんなで話し合えたのが楽しかった ・ グループの方が文章量が多かった ・ 分量よりも、見やすさを意識した。 ・ 構成がむずかしかった。濃い内容をスライド一枚にまとめるので、もっと人に見やすいようにするにはどうすればいいかよく考えるようになりました。 ・ 一人一人のこだわりがあり話しながらできた ・ 英語での表現の仕方が人によって異なっていて、語彙を増やせた。伝えたいことをグループで統一するのが難しい。
4. ホームページに載せる英文を考える時にどの程度、翻訳サイト等を参考にしましたか？



5. ホームページプロジェクトで難しかったこと・困ったことは何ですか？

- ・日本語を英語に翻訳すること
- ・写真の配置
- ・言葉で伝えることが難しいのに文章でわかりやすく伝えるためにはどうしたら良いのか難しかった。
- ・分担
- ・英語で何を説明文として書こうか迷いました。
- ・短い文にまとめること

6. このホームページプロジェクトを通して何か気づきがありますか？

- ・みんなに伝わりやすいような構成を考えることがいかに難しいか
- ・観音高校の部活は多いなと思った
- ・海外の人に伝える時にどこを詳しく伝えたらいいのか大体わかった。
- ・意外と観音良いところだった
- ・協力することが何よりも大切だと分かった
- ・英語説明は、短くするべし
- ・観音の制服の特徴をじっくり知れました。
- ・英文を作る力がつくこと

このプロジェクトの中では、生徒に自由に作成してもらいたかったのですが、最低限の指示や条件しか出さなかったが、生徒たちは楽しんで取り組んでいたように思う。他の教科でも取り組んでいるためか、生徒はスライド作成が上手だと感じるが多かった。自分たちの学校を紹介するためには、自分で学校のことをよくわかっていなければならないということに気づき、今あるホームページを見てみたり、他校のホームページを見て比較したり、他の友達や先生に話をしたりもしていた。「こういうことを伝えたい」という気持ちが、「伝えるために何が必要か」を考えさせていたように思う。また、個人で作成してからグループでもう一度作成という手順を踏んだことで、より良いものにできているのではないかと感じた。

一方、今後につながる課題も見えてきた。私は作成例があることで、例を意識しすぎてしまうのではないかと思い、例を提示しなかったが、生徒の中には、作成前に「例があれば少し作りやすかった」という意見もあり、少しは例があった方がより作りやすかったかもしれないと反省している。また英語の表現についても使えるものを事前にしっかり指導してから取組を行う方がよかったとも反省している。使える表現等をしっかりと教えることなく、生徒たちに作成させたので、自分の知っている英語で作文をしようとするよりも、iPad やインターネットの翻訳機能に日本語を入れてしまう状況も見られた。翻訳サイト等を 50%以上利用

した生徒は半数に満たなかったが、それでも利用している生徒は7割程度いるので、iPad やインターネットの翻訳機能の使用については、どのようにうまく付き合っていくのが良いのか、どのように折り合いをつけるのか、今後の指導の中でも考えていきたい。

何か形になるものを生徒とともに作りたいという気持ちでホームページプロジェクトと銘打って始めたが、現段階では掲載については検討中である。ホームページに掲載できなかったとしても、生徒の作品を姉妹校交流等で使用することも可能だと思うので、今後も生徒と英語で学校紹介プロジェクトは続けていきたいと思う。

「もっと計画的に取材などしたらより良いものになると思った」という生徒の意見もあり、緻密な授業計画の必要性や自分の授業の仕掛け方が甘かったと思うことばかりである。しかし中には、「初めてこのようなプロジェクトをして、海外の人に伝わったらいいなと思う」、という意見もあり、今後も改善していきたい。

最後に、拙い授業実践ではあるが、実践報告としてまとめる場をいただいたことに感謝して、次年度以降もより良い授業作りを目指して、生徒とともに楽しく英語を学んでいきたいと思っている。

令和5年6月30日

各高等学校長様
各特別支援学校長様
英語部会員様

広島県高等学校教育研究会英語部会
部会長 高橋 真
(広島県立安芸府中高等学校長)

第60回広島県高等学校教育研究会英語部会定期総会・研究大会について（御案内）

標記の会を次の要領により開催いたします。校務など調整の上、御出席下さいますようお願い申し上げます。

参加につきましては、7月21日（金）までに、以下のリンクより Google Forms にてお申込みください。

- 1 主催 広島県高等学校教育研究会英語部会
- 2 期日 令和5年8月1日（火）
- 3 会場 合人社ウェンディひと・まちプラザ
〒730-0036 広島県広島市中区袋町6番36号
TEL 082-545-3911 FAX 082-545-3838
- 4 日程

13:00 - 13:30	受付
13:30 - 13:50	定期総会
13:50 - 15:20	ワークショップ 「英語科における観点別評価について」 講師：加藤 賢一先生（安芸府中高等学校） 内容： 昨年度から実施されている学習指導要領において、目標及び内容が資質・能力の三つの柱で再整理されたことを踏まえ、各教科における観点別学習状況の評価の観点「知識・技能」、「思考・判断・表現」、「主体的に学習に取り組む態度」の3つに整理されています。今回のワークショップでは、参加校の先生方に情報交換を行っていただきつつ、英語科における望ましい観点別評価の在り方について認識を深めることを目標とします。
15:20 - 15:30	閉会行事

- 5 申込 以下のリンクまたはQRコードにてお申込みください。

URL : <https://forms.gle/n8HZREndqgFW63mh7>



(問い合わせ先)

広島県立安芸府中高等学校英語部会事務局

〒735-0004

広島県安芸郡府中町山田5丁目1-1

広島県立安芸府中高等学校 校内

担当 久山 慎也

アドレス s-hisayamak975592@hiroshima-c.ed.jp

TEL 082-282-5311 FAX 082-282-5306

第60回
広島県高等学校教育研究会英語部会

定 期 総 会
研 究 大 会
要 項

期 日 令和5年8月1日（火）

会 場 合人社ウエンディひと・まちプラザ
〒730-0036 広島県広島市中区袋町6番36号

主 催
広島県高等学校教育研究会英語部会

後 援
広 島 県 教 育 委 員 会

第60回広島県高等学校教育研究会英語部会 定期総会・研究大会要項

1 開催関係団体

主催 広島県高等学校教育研究会英語部会
後援 広島県教育委員会

2 期日 令和5年8月1日（火）

3 会場 合人社ウエンディひと・まちプラザ 〒730-0036 広島県広島市中区袋町6番36号

4 日程

13:00 - 13:30 受付

13:30 - 13:50 定期総会

13:50 - 15:20 ワークショップ

演題 「英語科における観点別評価について」

講師 加藤 賢一先生

広島県立安芸府中高等学校

15:20 - 15:30 閉会行事（アンケート Form）

第60回広島県高等学校教育研究会英語部会 定期総会

1 開会行事

- (1) 開会のことば
- (2) 会長挨拶 広島県立安芸府中高等学校 校長 高橋 真
- (3) 役員紹介
- (4) 日程説明

2 定期総会

議長選出

議事

- 報告1 令和4年度事業報告
- 報告2 令和4年度会計決算並びに監査報告
- 第1号議案 令和5年度本部役員並びに事務局に係る件
- 第2号議案 令和5年度事業計画に係る件
- 第3号議案 平成5年度予算に係る件
- その他

3 閉会行事

閉会のことば

報告 1 令和 4 年度事業報告 (別紙資料 1 参照)

- 1 第 59 回定期総会 (書面決議)

- 2 第 19 回広島県高校生英語スピーチ・レシテーションコンテストの実施
第 15 回中国地区高等学校英語スピーチコンテスト兼第 14 回 全国高等学校英語スピーチコンテスト中国ブロック予選
*オンライン開催

- 3 第 59 回広島県高等学校英作文コンテストの実施

- 4 第 14 回広島県高校生英語ディベート大会の実施

- 5 公開研究授業の実施

- 6 英語部会の事業・自己研修に関する意識調査アンケートの実施

- 7 会誌 57 号のデジタル発行
[広島県教育委員会ホームページ](#)に掲載

報告 2 令和4年度会計決算並びに監査報告

令和4年度広島県高等学校教育研究会収支決算書

部会名 英語部会

収入の部 (単位:円)

科目	予算額	決算額	増減	内訳
前年度繰越金	174,469	174,469	0	
会費	150,000	111,500	△ 38,500	500円×223人
県補助金	10,000	10,000	0	
寄付金・助成金	0	0	0	
参加費	0	35,000		5,000円×7校
雑収入		0		
合計	334,469	330,969	△ 38,500	

支出の部 (単位:円)

科目	予算額	決算額	増減	内訳	
経費	157,540	197,241	△ 39,701		
内訳	理事会費	10,000	64,625	△ 54,625	講師謝金、振込手数料
	全英連会費	10,000	10,110	△ 110	会費、振込手数料
	英作文コンテスト	19,000	21,400	△ 2,400	副賞図書券Y3,000×2、Y2,000×2、Y1,000×4、Y500×12 送料
	英語スピーチ・レシテーションコンテスト	58,540	54,010	4,530	謝金Y5,000×6-Y33,600、旅費Y9,620(大学教授)、講師、香典前金等、湯茶Y5,539、賞状、文具Y5,851
	英語ディベート大会	35,000	39,136	△ 4,136	寄附品旅費Y16,160、講師金等、湯茶Y10,128 文具Y1,624 賞状Y5,990 郵便代Y1,640 振込手数料Y594
	消耗品費	25,000	7,960	17,040	通信費
次年度繰越額		133,728			

諸帳簿並びに関係証拠書類を監査の結果、適正に処理されていることを認めます。

令和5年3月22日

会計監査 広島県立尾道東高等学校
神笠薫子 

第1号議案 令和5年度本部役員並びに事務局に係る件

役職名	氏名	公職名
会長	高橋 真	安芸府中高等学校校長
副会長	原田 豊之	油木高等学校校長
副会長	神笠 薫子	豊田高等学校校長
監事	岡寄 友一	音戸高等学校教頭
監事	坂本 真寛	尾道東高等学校指導教諭
理事	森政 美和	府中高等学校主幹教諭
理事	飯田 弘哉	加計高等学校教諭
理事	坂口 直美	呉昭和高等学校教諭
理事	永田 大介	賀茂高等学校教諭
理事	名越 幸江	東城高等学校教諭
理事	花田 真貴	尾道北高等学校教諭
庶務	久山 慎也	安芸府中高等学校指導教諭
庶務	松島 浩司	安芸府中高等学校教諭
庶務	加藤 賢一	安芸府中高等学校教諭
庶務	頼近 真理	安芸府中高等学校教諭
庶務	菅田 千寿美	安芸府中高等学校教諭
会計	折田 実保	安芸府中高等学校教諭

【事務局】

広島県立安芸府中高等学校

TEL(082)282-5311 FAX(082)282-5306

担当：久山 慎也・折田 実保・松島 浩司

第2号議案 令和5年度事業計画に係る件

- 1 第60回定期総会並びに研究大会の開催
- 2 第20回広島県高校生英語スピーチ・レシテーションコンテスト
- 3 第60回広島県高等学校英作文コンテスト
- 4 第15回広島県高校生英語ディベート大会
- 5 公開研究授業の実施
- 6 英語部会の事業・自己研修に関する意識調査アンケートの実施
- 7 会誌58号のデジタル発行

第3号議案

令和5年度予算に係る件

令和5年度広島県高等学校教育研究会収支予算書（案）

部会名 英語部会

収入の部 (単位：円)

科 目	予算額	積 算 内 訳
会 費	100,000	500円×200人
県 補 助 金	0	
寄付金・助成金	0	
高校生育成事業参加費	35,000	英語ディベート大会5,000円×7校
前年度繰越金	133,728	
合 計	268,728	

支出の部

科 目	予算額	積 算 内 訳
経 費	268,728	
内 訳	理 事 会 費	10,000 借料・損料, 湯茶代
	全 英 連 会 費	10,110 会費10,000円, 振込手数料110円
	英作文コンテスト	19,000 副賞図書券3,000*2+2,000*2+1,000*4+500*10=19,000円
	県スピーチ・レシテーションコンテスト	58,000 謝金¥5,600*6=¥33,600, 旅費¥9,020 (大学教授), 講師, 審査員弁当, 湯茶¥5,539, 賞状・文具・雑費等
	英語ディベート大会	40,000 謝金4,790*5=23,950円, 旅費8,085円 (大学職員) 借料・損料1000円 (電気) 弁当・湯茶・雑費等
	消耗品費	25,000 文具代金, 封筒代, ラベルシール代, 通信代等含む
予 備 費	106,618	
合 計	268,728	

その他

(1) 英語部会会費の納入期限は8月18日(金)まで

(2) 全英連より案内

- ・[全英連愛媛大会](#) (令和5年11月24日(金)、25日(土))
- ・[全英連英作文コンテスト](#)
- ・[全英連スピーチコンテスト](#)

(全英連ホームページ <http://www.zen-ei-ren.com/>)

(3) アンケート Form

<https://forms.gle/hnhPDUMsxTigNjnK6>



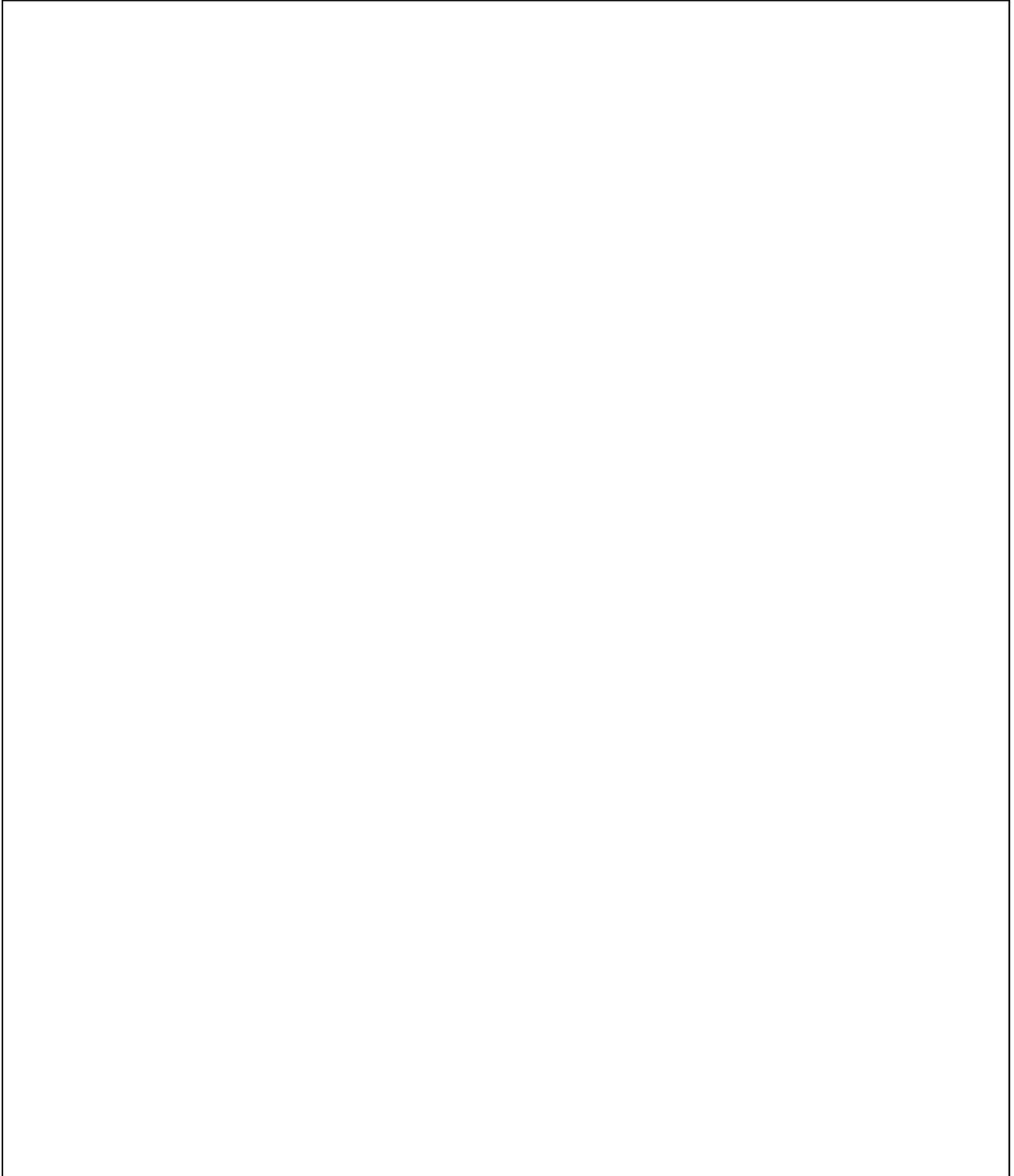
第60回広島県高等学校教育研究会英語部会
研究大会

ワークショップ (13:50 - 15:20)

テーマ「英語科における観点別評価について」

講師 加藤 賢一先生

広島県立安芸府中高等学校



広島県英語部会 教員研修（ワークショップ）

「英語科における観点別評価について」

開催日時：2023年8月1日（火）13：50～15：20

会場：合人社ウエンディひと・まちプラザ

講師：加藤 賢一 教諭（広島県立安芸府中高等学校）

参加者：教員 29名

内容：

昨年度から実施されている学習指導要領において、目標及び内容が資質・能力の三つの柱で再整理されたことを踏まえ、各教科における観点別学習状況の評価の観点が、「知識・技能」、「思考・判断・表現」、「主体的に学習に取り組む態度」の3つに整理されている。今回のワークショップでは、参加校の教員間で情報交換を行いつつ、英語科における望ましい観点別評価の在り方について認識を深めることを目標とした。

【グループ討議で使用したワークシート】

学校・家庭での理想像を言語化

【コミュニケーション英語Ⅰ・主体的に学習に取り組む態度】

知識及び技能を獲得したり、思考力、判断力、表現力等を身に付けたりするために、



【学校】





【自宅】

【発表用スライド】

英語科における観点別評価について
 ～何のために観点別評価をやるの？～

安芸府中高等学校
 教諭 加藤 賢一

8月 1日 火曜日
 加藤

おしながき

1 学力とは？
 ※ 自らの学力観を振り返る！

2 指導法と観点別評価

AKF 6 つの力

論理的に考える力 

課題発見・解決力 

伝える力 

協働する力 

やり抜く力 

俯瞰して考える力 

AKF6つの力を育成するには・・・

“分かる”と“できる”は、
違う！！

「できる」になるには、まずやること。
 「やりつづける」こと。

AKF 6 つの力の設定理由

“VUCA” World

- Volatility (変動性)
- Uncertainty (不確実性)
- Complexity (複雑性)
- Ambiguity (曖昧性)

シンギュラリティ
 2045年、AIが
 人間を超える？

コロナ
 ウイルス

急速な
 技術革新

北朝鮮
情勢

-4.5%が自動化、ロボット化
 -6.5%が現在ない職業に

将来を見通すことが困難で、
“先行き不透明な正解のない時代”

正解のない時代で活躍するためには・・・

自分軸の確立！



令和3年度 音読指導&評価

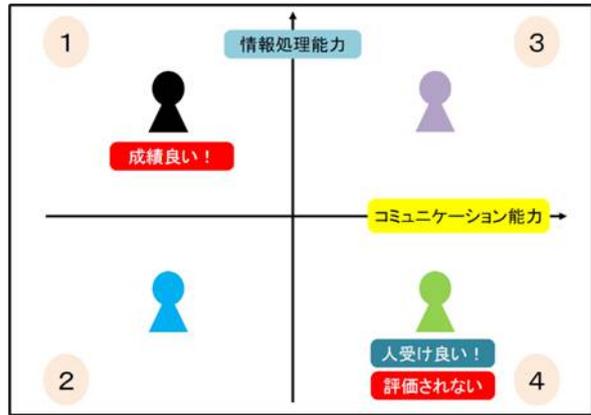
- 1 ゴールデンウィーク課題
 → 授業で習った範囲を家庭で音読して、
 Google classroomに提出
- 2 夏休み課題
 → 未習の範囲を家庭で音読して、
 Google classroomに提出
- 3 11月に暗唱コンテストを実施

音声を聞いて得点をつけましょう！

3	<ul style="list-style-type: none"> ・話し手が話す英語が理解しやすい ・自然な場所でポーズが置かれていて、発音も正確である。 ・発音、ストレス、リズム、イントネーションが正しい。
2	<ul style="list-style-type: none"> ・話し手が話す英語を理解するのに聞き手がやや負担がかかるが、ある程度理解できる発音である。 ・発音やポーズの違いにより、理解するのが少し難しい。 ・ストレス、リズム、イントネーションが聞き手に混乱を起こしうる。
1	<ul style="list-style-type: none"> ・しっかりと聞いても、話し手が話す英語がはっきりと聞こえない。 ・簡単な単語や語句の強弱は正しくできている。 ・個々の音、ストレス、リズム、イントネーションが話し手の話す別の言語によって影響を受けている。
0	<ul style="list-style-type: none"> ・英語を発していない ・発している英語を聞き取ることができない。

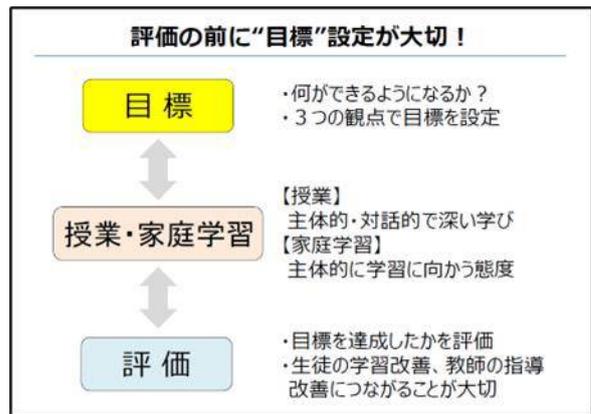
1年の最後に身に付けてほしい資質・能力

- ① 授業で扱う英文(説明文、論説文)を80wpmで読んで、情報や考えなどを理解し、概要や要点をまとめて話すことができる。(リテリング活動)
- ② 説明文や論説文を読んで、内容についての質問に、答えの根拠となる部分を引用して答えることができる。



令和5年度入学生@観点別評価の割合

【観点&割合】		【総合的達成状況と評定の対応表】	
観点	割合	得点率(%)	6段階評定
思考・判断・表現	1	80以上~100	5 十分に満足できるもののうち特に程度が高い
知識・技能	1	70以上~80未満	4 十分に満足できる
主体性	1	50以上~70未満	3 概ね満足できる
【観点別の評価指標】		30以上~50未満	2 努力を要する
得点率(%)	評価	0以上~30未満	1 努力を要するもののうち一層の努力を要する
70以上~100	A 十分に満足できる		
50以上~70未満	B 概ね満足できる		
0~50未満	C 努力を要する		



各観点の内訳 (イメージ)

観点	総点	内容	評価のタイミング	配点
思考・判断・表現	100	音読 → リテリング (パフォーマンステスト)	各単元	30
		音読+Q&A (パフォーマンステスト)	学期に1回(提出物)	10
		パフォーマンス課題	2単元で1回	-
知識・技能	100	単語テスト等	週1回	40
		定期考査等	定期考査	60
		主体的に学びに向かう態度 (参加度等)	各単元(ルーブリック)	30
主体的に学習に取り組む態度	100	四技能アプリでの学習時間	各学期	20
		文法のまとめ	各単元(ルーブリック)	-
		提出物	各単元	20

現在の指導観

- 「分かる」→「できる」を中心に考える。
- 授業、単元の最後に「何ができる」か!
- 教えない授業
→ 生徒中心

※ 効率的だけど、効果的でない

意味理解&クイックリスポンス

- 1 (_____)
- 2 (_____)
- 3 (_____)

定期考査の工夫

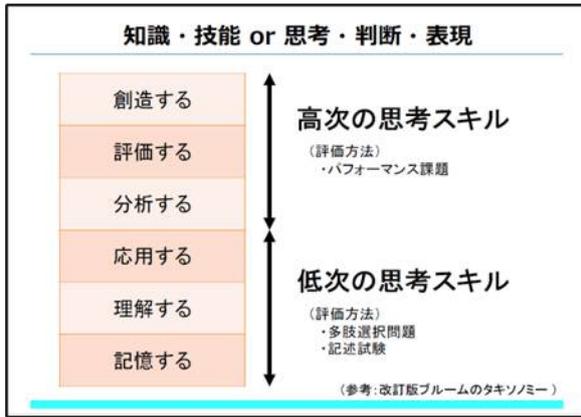
知識・技能を問う問題と思考力・判断力・表現力を問う問題に**タグづけ**をして採点

知識・技能

- ・記憶すれば解答できる問題
- 教科書、ワーク等と全く同じ問題

思考力・判断力・表現力

- ・初見の問題
- ・既習の言語材料を別の文脈で出題
- ・答えのない問題に対して自分の意見を表現



主体的に学習に取り組む態度の評価

「主体的に学習に取り組む態度」の評価に際しては、単に継続的な行動や積極的な発言等を行うなど、性格や行動面の傾向を評価するということではなく、各教科等の「主体的に学習に取り組む態度」に係る評価の観点の趣旨に照らして、知識及び技能を獲得したり、思考力、判断力、表現力等を身に付けたりするために、自らの学習状況を把握し、学習の進め方について試行錯誤するなど自らの学習を調整しながら、学ぼうとしているかどうかという意思的な側面を評価することが重要である。

報告「児童生徒の学習評価の在り方について(報告)」平成31年1月21日

主体的に学習に取り組む態度 (参加度等)

英語コミュニケーション 主体的な授業参加 自己評価シート

○ 学習態度調査後→学習や授業態度での取組を振り返り、自己評価を行います。「5, 3, 1」のうち最も当てはまるものを○をつけてください。

【主体的な授業参加】	5	3	1
授業	積極的に発言できる	積極的に発言する	発言しない
ペアワーク、グループワークなど協働的な活動	積極的に参加できる	積極的に参加する	参加しない
授業への理解 (多言語)	理解が深い	理解がある	理解が浅い

○ 定期考査返却時に生徒と面談しながら評価を実施

主体的に学習に取り組む態度 (学習時間)

目標設定

志望大学に合格した先輩の英語力で逆算した**目標設定**

スモールステップ学習

自分のCEFRに合わせて問題を取りめます。
1レッスン15分

AIとの英会話トレーニング

発音・アクセント・流暢さの観点でAIが判定
自分の返答次第でAIが判断し、**会話が変化していきます**

パフォーマンス課題を取り入れた単元構成 ①

No.	内容	備考
1	導入(ビデオ視聴)、生徒自ら探究の「問い」を設定	The Question Formulation Techniqueを参考に問いづくりを行う。
2	単語テスト(英→日)、単元通し読み(速読)、Q & A	
3	Part 1	本文の内容を理解し、英語で説明できる。
4	Part 2(リディング読解 Part 1)	本文の内容を理解し、英語で説明できる。
5	Part 3(リディング読解 Part 2)	本文の内容を理解し、英語で説明できる。
6	プロジェクト学習①(解決策を創造、プレゼンの流れを構築)	他者と協働し、解決策を創造できる。
7	プロジェクト学習②(資料作成、フィードバック)	他者と協働し、解決策を創造できる。
8	プロジェクト学習③(フィードバックに基づき資料をリハイス)	他者と協働し、解決策を創造できる。
9	発表会&振り返り	社会で働く方の方に企画案を聞いてもらい、フィードバックをもらう。

パフォーマンス課題を取り入れた単元構成 ②

No.	内容	備考
1	導入(ビデオ視聴)、生徒自ら探究の「問い」を設定	The Question Formulation Techniqueを参考に問いづくりを行う。
2	単語テスト(英→日)、単元通し読み(速読)、Q & A	
3	Part 1	本文の内容を理解し、英語で説明できる。
4	Part 2(リディング読解 Part 1)	本文の内容を理解し、英語で説明できる。
5	Part 3(リディング読解 Part 2)	本文の内容を理解し、英語で説明できる。
6	プロジェクト学習①(解決策を創造、プレゼンの流れを構築)	他者と協働し、解決策を創造できる。
7	プロジェクト学習②(資料作成、フィードバック)	他者と協働し、解決策を創造できる。
8	プロジェクト学習③(フィードバックに基づき資料をリハイス)	他者と協働し、解決策を創造できる。
9	発表会&振り返り	社会で働く方の方に企画案を聞いてもらい、フィードバックをもらう。

パフォーマンス課題を取り入れた単元構成 ③

あなたはSDGsを声高に叫び、何の行動も起こさない人々に疑問を抱いている地球市民(グローバル・シチズン)です。

ファストファッションの問題点(トレンドアイテムのコピー問題、クオリティの低い品質が売られる問題、労働力問題(人権問題)、環境問題など)を引き起こす要因を1つ取り上げ、その課題を解決するための解決策を「創造」し、3分程度のプレゼン資料を作ってください。7月6日(火)にブラジルの大学にお勤めの先生をお迎えして、発表会を行います。

文法参考書を活用した探究学習

静岡県の高校の実践

- 英語表現で文法を学習
- 生徒は文法参考書を活用して、文法事項を整理
- 単に写すだけではなく、概念が整理されていれば高評価となるようにループワークを作成し、生徒に共有。
- 優良な文法のまとめを一つ取り上げ、印刷して生徒に配布することで、生徒は好事例を学び、ますます多くの生徒が主体的に学習に取り組むサイクルを確立

参加された先生方の声（アンケートより）

- ・具体的な内容だった。
- ・考え方を学べた。
- ・本質的なことを見直す機会となった。
- ・やらされ感しかなかった評価について、その意味を考える機会をいただきました。
- ・2学期からの授業について考えようとしていたタイミングだったので、講師の先生のお話や、他校の先生との意見交換の内容を活かしていけると感じたから。
- ・加藤先生のご経験や生き様、教員としての在り方に感銘を受けました。
- ・私自身の勤務校でも目標として何を共有して教育活動にあたるか、改めて考えたいと感じています。
- ・ワークショップでペアやグループで話をする中で、言葉にすることで自分の中のモヤモヤした部分を見つめ直すことができました。最後のTTPという言葉が気に入りました。目の前の生徒のため、今日のワークショップを自分の中に落とし込んでいきたいと思えます。
- ・もう一步深い内容に踏み込んでいただき良かったです。参加者が発表する場面がもう少しあれば良かったです。
- ・安芸府中高校の実例を交えイメージしやすい内容でした。
- ・現在、定時制に勤務しているため、どの教科も本務者が1名の状態です。観点別評価を行うにあたって一人で考え、これでいいのだろうか？と不安に思っていました。加藤先生のお話を伺って、自分がやってきたことが間違っていないということに気づくことができました。安芸府中での取り組みを参考に、生徒一人ひとりの得意なチャンネルを見つけ活かせるような評価課題を考えていきたいと思えます。
- ・参加型形式で、他校の先生と意見交換をしながら、観点別評価についてじっくり考えることができました。加藤先生という素晴らしい先生の存在を知れて良かったです。

令和5年6月30日

広島県高等学校教育研究会英語部会
関係高等学校長様
英語部会員様

広島県高等学校教育研究会英語部会
部会長 高橋 真
(広島県立安芸府中高等学校長)

第20回広島県高校生英語スピーチ・レシテーションコンテストの開催について

皆様には益々御清栄のこととお慶び申し上げます。日頃より本部会の活動に御協力をいただき、心より感謝申し上げます。

さて標題のコンテストを次の要領により開催しますので御案内申し上げます。できるだけ多くの生徒のみなさんが参加できるように積極的にお取り計らいをいただけますよう、よろしくお願い申し上げます。

実施要項

1 目的

- (1) 授業における音読活動の成果を発表する場を提供することにより、コミュニケーション能力の育成を図る。
- (2) 日常生活の身近な話題や幅広い話題について自分の考えなどを英語で発表する機会を提供することにより、コミュニケーション能力の育成を図る。

2 主催 広島県高等学校教育研究会英語部会

3 参加資格

(1) スピーチ部門

広島県の国公私立高等学校および高等専門学校(1～3学年)などの学校に在学する生徒。
外国籍の生徒も参加できる。ただし、留学生は参加できない。

(2) レシテーション部門

- ① 広島県の国公私立高等学校および高等専門学校(1～3学年)などの学校に在学する生徒。
英語を母語としない高校生で、大会当日までの過去3年間に海外在住期間が連続半年以内であること。
- ② 昨年のレシテーション部門で最優秀賞を獲得した生徒は今年度の同部門の参加はできない。

(3) スピーチ部門・レシテーション部門 共通

広島県高等学校教育研究会英語部会の会員が勤務している学校に在籍する生徒であること。(未加入の場合は審査当日までに会員登録と会費の納入を完了してください。完了していない場合は審査除外となります。)

4 規定

(1) スピーチ部門

- ① 主題「私の主張」に基づきタイトルは自由とする。
- ② 制限時間は 4分30秒以上5分30秒以内とする。

(2) レシテーション部門

- ① 題材は生徒の該当学年の教科書（教材も含めて）を暗唱する。
 - ア. 高校1年生の部
英語コミュニケーションⅠの教科書を原則に選定すること。
尚、検定教科書であれば使用教科書以外からの選定も可。
 - イ. 高校2・3年生の部
英語コミュニケーションⅡまたはコミュニケーション英語Ⅲの教科書を原則に選定すること。
尚、検定教科書であれば使用教科書以外からの選定も可。
- ② 制限時間は 3分以内とする。
但し、制限時間内であれば使用する教材を編集しても構わない。

5 応募期限 令和5年8月25日（金）必着

6 応募方法 ①参加申し込み : 令和5年 7月28日（金）までにメールで申し込む

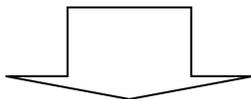


※メールに申し込み（エクセル）を添付して送付

送付先アドレス

s-hisayamak975592@hiroshima-c.ed.jp
広島県立安芸府中高等学校内
英語部会事務局 久山 慎也

② 8月1日～5日を目安に事務局から参加校の担当者メールアドレスに 音声データの提出方法について通知が届く。



③音声データ(CD)の提出 : 令和5年 8月25日（金）までに

○CD 郵送の場合 ➡ 安芸府中高校へ郵送する

○音声データの場合 ➡ 通知に示された Google ドライブへアップロードする

7 応募上の留意点

(1) 英文原稿の様式について

A 4 用紙縦、中央にタイトル、タイトル下の右側に部門名・学校名・学年・氏名・年齢および性別を全て記入し、さらにローマ字で氏名を書きそえること。

(例)	(タ	イ	ト	ル)
				スピーチの部
				〇〇立△△高等学校
				1 年・英語太郎・16 歳・男
				EIGO, Taro

(2) 録音について (音源)

録音は最初に学年・氏名・タイトルを読んでから原稿に入る。

【Google ドライブに提出する場合】

英語部会事務局 Google ドライブの「第 20 回スピーチ・レシテーションコンテスト録音提出」フォルダにそれぞれスピーチ部門、レシテーション部門高校 1 年生の部、レシテーション部門高校 2、3 年生の部に分けて提出する。なお、ファイル名は部門名・学校名・学年及び氏名を明記する。注意：明記されていない場合は、審査の対象外となります。

【CD で郵送する場合】

音声データは CD で提出する場合、各学校で、スピーチ部門、レシテーション部門高校 1 年生の部、レシテーション部門高校 2、3 年生の部ごとに 1 枚とする。

① 参加者ごとにトラックを分ける。

② CD は順番がわかるように明記する。(チャプターを明記)

ファイル名は部門名・学校名・学年及び氏名を明記する。

注意：明記されていない場合は、審査の対象外となります。

(3) 応募数について

スピーチ部門、レシテーション部門 1 年生の部、レシテーション部門 2・3 年生の部ごとに、それぞれ 1 校 5 名までとする。

(4) 応募された CD は返却しない。

(5) 本選で最優秀賞・優秀賞を獲得したスピーチ部門英文原稿は、英語部会会誌に掲載される。

8 予選・本選について

(1) 予選

1 期日 令和 5 年 9 月 1 日 (金) 13:30~16:30

2 会場 広島県立安芸府中高等学校

〒 735-0004 広島県安芸郡府中町山田 5 丁目 1-1

TEL 082-282-5311 FAX 082-282-5306

3 選考 各校からの音声データ及び英文原稿をもとに選考委員が行う。

4 審査基準

(1) スピーチ部門

社会問題を提起し、積極的な意見の主張であることを基本に、発音や抑揚を総合的に判断する。

・本選決定について

原稿と音源により **10名の本選の出場者を選出**する。

(2) レシテーション部門

発音や抑揚、デリバリーを中心に総合的に判断する。

・本選決定について

原稿と音源により1年生の部と2・3年生の部からそれぞれ **10名の本選出場者を選出**する。

但し、本選に出場できるのは、スピーチ部門、レシテーション部門1年生の部、レシテーション部門2・3年生の部ごとに、**1校2名まで**とする。

5 通知 予選審査結果と正式な本選案内は9月8日（金）前後に学校に通知する。

(2) 本選

1 期日 令和5年9月17日（日）

2 会場 広島県立安芸府中高等学校

〒735-0004 広島県安芸郡府中町山田5丁目1-1

TEL 082-282-5311 FAX 082-282-5306

3 日程（予定）

受付 10:00 ～ 10:30

開会行事 10:30 ～ 10:45

<レシテーション部門>

1年生の部発表 10:50 ～ 11:40

2・3年生の部発表 11:50 ～ 12:40

昼食 12:40 ～ 13:25

<スピーチ部門>

発表 13:30 ～ 14:50

審査 15:00 ～ 15:40

審査発表・表彰 15:45 ～ 16:00

閉会行事 16:00 ～ 16:15

9 表彰

○スピーチ部門

最優秀賞（1名） 優秀賞（1名） 優良賞（2名） 敢闘賞（3名）

○レシテーション部門（1年生の部、2・3年生の部、それぞれに）

最優秀賞（1名） 優秀賞（1名） 優良賞（2名） 敢闘賞（3名）

○学校優良賞（参加校の中から優れた作品を出品した学校）

10 中国大会について

スピーチ部門の上位2名は中国地区大会に出場する権利を得る。ただし、2名の内少なくとも1名は、次の(1)～(3)のいずれにも該当しない者とする。

- (1) 満5歳の誕生日以後に、通算1年以上または継続して6ヶ月以上、英語圏（英語を第一言語、公用語、または公用語に準ずる言語として使用する国、地域）に居住した者。 ※英語圏詳細については別途、全英連ホームページに掲載される。
- (2) 日本国内、海外を問わず、6ヶ月以上、英語以外の教科に関し、実態として英語による教育を行っている学校（アメリカン・スクール、インターナショナル・スクール、または授業科目の半分以上を英語で教育を行っている学校を含む）に在籍し、その教育を受けたことのある者。
- (3) 満5歳の誕生日以後に、保護者または同居親族に、英語を母語とする者、もしくは英語圏出身の者がいる場合。

大会名：第15回中国地区高等学校英語スピーチコンテスト兼第15回全国高等学校英語スピーチコンテスト中国ブロック予選

日 時：令和5年11月18日（土）

会 場：岡山県立岡山朝日高等学校

〒703-8278 岡山市中区古京町2番21号 TEL：086-272-1271

（問い合わせ先・応募先）

〒 735-0004

広島県安芸郡府中町山田5丁目1-1

広島県立安芸府中高等学校 内

英語部会事務局 第20回広島県高校生スピーチ・レシテーションコンテスト 係
担当 久山 慎也

アドレス s-hisayamak975592@hiroshima-c.ed.jp

TEL 082-282-5311 FAX 082-282-5306

THE 20TH ANNUAL ENGLISH SPEECH & RECITATION CONTEST
for high school students in Hiroshima

RECITATION FOR THE 1st YEAR STUDENTS

No.	NAME	SCHOOL	YEAR	TITLE OF SPEECH
1	井田 佳志乃 IDA, Yoshino	広島大学附属福山中高等学校	1	Twice Bombed, Twice Survived
	黒太 美桜 KUROTA, Mio			
2	谷崎 悠 TANIZAKI, Yu	広島県立福山誠之館高等学校	1	What Do You Eat for Lunch?
	泉 有花 IZUMI, Yuka			
3	松岡 美波 MATSUOKA, Minami	広島県立福山誠之館高等学校	1	The Adventures of Curious George's Creators
	西ノソミオガニザ NISHI, Nozomi Oganiza			
4	松田 綾乃 MATSUDA, Ayano	広島県立三次高等学校	1	The Happy Prince
	永井 さくら NAGAI, Sakura			
5	青木 ミサキ AOKI, Misaki	広島県立安芸府中高等学校	1	The Jar of Life
	岩本 奈々 IWAMOTO, Nana			
6	山口 愛花 YAMAGUCHI, Aika	広島県立尾道北高等学校	2	Stay Hungry, Stay Foolish
	今田 えみり IMADA, Emiri			
7	入澤 瑠星 IRIZAWA, Ruito	広島大学附属高等学校	2	Stay Hungry, Stay Foolish
	竹原 深月 TAKEHARA, Mizuki			
8	渡邊 真優 WATANABE, Mayu	広島県立高陽高等学校	2	The Great Dictator
	藤原 千尋 FUJIWARA, Chihiro			
9	今井 青波 IMAI, Seiha	広島大学附属高等学校	2	The True Story of the Bear Behind Winnie-the-Pooh

RECITATION FOR THE 2nd & 3rd YEAR STUDENTS

No.	NAME	SCHOOL	YEAR	TITLE OF SPEECH
1	田坂 綾莉 TASAKA, Ayari	広島県立広島高等学校	2	Invisible No Longer
	南中 伶心 MINAMINAKA, Reiko			
2	西上 遥 NISHIGAMI, Haruka	広島県立広島高等学校	2	Invisible No Longer
	山口 愛花 YAMAGUCHI, Aika			
3	今田 えみり IMADA, Emiri	広島県立世羅高等学校	2	Gender Equality Is Your Issue, Too
	入澤 瑠星 IRIZAWA, Ruito			
4	竹原 深月 TAKEHARA, Mizuki	広島大学附属福山中高等学校	2	Life in a Jar
	渡邊 真優 WATANABE, Mayu			
5	藤原 千尋 FUJIWARA, Chihiro	広島県立三次高等学校	2	Little Red Riding Hood
	今井 青波 IMAI, Seiha			
6		広島大学附属高等学校	2	The True Story of the Bear Behind Winnie-the-Pooh

SPEECH

No.	NAME	SCHOOL	YEAR	TITLE OF SPEECH
1	佐々生 夏也都 SASAO, Kayato	修道高等学校	1	Special Existence
	古田 磨椰 FURUTA TRAORE, Maya Atma			
2	古田 磨椰 FURUTA TRAORE, Maya Atma	広島市立沼田高等学校	2	Pave My Way
	ダノ プリンセス DANO, Princess			
3	ダノ プリンセス DANO, Princess	広島県立音戸高等学校	1	Why I Keep Going
	谷村 咲蕾 TANMURA, Sakura			
4	谷村 咲蕾 TANMURA, Sakura	広島大学附属高等学校	1	Nipping War in the Bud
	村上 さゆり MURAKAMI, Sayuri			
5	村上 さゆり MURAKAMI, Sayuri	広島県立安芸府中高等学校	2	Rethinking Our Use of Water
	藤本 莉智 FUJIMOTO, Richi			
6	藤本 莉智 FUJIMOTO, Richi	広島県立忠海高等学校	3	One Cola
	サブコタ ムナ SAPKOTA, Muna			
7	サブコタ ムナ SAPKOTA, Muna	広島県立安芸府中高等学校	2	Let's Say "NO!"
	瀬尾 啓太 SEO, Keita			
8	瀬尾 啓太 SEO, Keita	広島県立福山誠之館高等学校	2	Youth Participation in Politics to Improve Our Tomorrow
	天川 華 AMAKAWA, Hana			
9	天川 華 AMAKAWA, Hana	広島県立広島高等学校	1	The Meaning of Learning Languages
	西本 美優理 NISHIMOTO, Miyuri			
10	西本 美優理 NISHIMOTO, Miyuri	ノートルダム清心高等学校	1	Contrasting World Behind Us

お知らせ

●第16回中国地区高等学校英語スピーチコンテスト兼第15回全国高等学校英語スピーチコンテスト
中国ブロック予選

日 時: 令和5年11月18日(土) 13:00~16:00
会 場: 岡山県立岡山朝日高等学校
〒703-8278 岡山市中区古京町2番21号

●第16回全国高等学校英語スピーチコンテスト

日 時: 令和6年2月10日(土)、11日(日)
会 場: 国立オリンピック記念青少年総合センター
〒151-0052 東京都渋谷区代々木神園町3-1

●第15回広島県高校生英語ディベート大会兼全国大会予選会

Resolved: That the Japanese government should legalize gestational surrogacy.
日本政府は、代理出産を合法化すべきである。是か非か。
日 時: 令和5年10月29日(日)
会 場: 広島県立安芸府中高等学校
〒735-0004 安芸郡府中町山田5丁目1-1

第 20 回広島県高校生英語スピーチ・レシテーションコンテスト

- 1 本選実施日 令和 5 年 10 月 1 日（土）
- 2 発表者 広島県内の高校生 30 名
（コンテストに応募した 22 校 90 名から一次審査により選出）
- 3 場所 広島県立安芸府中高等学校
- 4 審査員 三熊 祥文 広島工業大学 教授
小林 峰子 広島県教育委員会高校教育指導課 指導主事
クロエ・ガスト 広島県立祇園北高等学校 外国語指導助手

5 コンテストの概要報告

第 20 回広島県高校生英語スピーチ・レシテーションコンテストの本選が、令和 5 年 9 月 17 日（土）に広島県立安芸府中高等学校にて開催されました。スピーチ部門とレシテーション部門を合わせて 22 校、計 90 名の応募者の中から、一次審査により選出された 30 名（各部門 10 名ずつ）が参加しました。審査員として、広島工業大学三熊祥文教授、広島県教育委員会小林峰子指導主事、広島県祇園北高等学校クロエ・ガスト外国語指導助手をお招きしました。

今年度は 3 年ぶりに対面での開催となり、参加した生徒たちは日ごろの練習の成果を遺憾なく発揮しました。審査委員長である三熊教授からは、「発音が英語のネイティブスピーカーに近いかどうかだけが重要ではなく、自分の英語を聞き手に聞かせ、理解してもらうという意識が重要だと思います。今回の参加者の皆さんは、その点をよく頑張っており、毎年審査員を務めていますが、年々レベルが上がっているのを感じます」とのご講評をいただきました。

今後もより多くの方々に参加をしていただき、本コンテストがさらに盛り上がっていくことを期待します。
（報告：広島県立安芸府中高等学校 久山慎也）

【レシテーション 1 年生の部、2・3 年生の部参加者】



【スピーチの部参加者】



第20回広島県高校生英語スピーチ・レシテーションコンテスト審査結果

広島県高等学校教育研究会英語部会
部会長 高橋 真
(広島県立安芸府中高等学校長)

レシテーション1年の部

	NAME	SCHOOL	TITLE
最優秀賞	松田 綾乃	広島県立三次高等学校	The Happy Prince
優秀賞	永井 さくら	広島県立三次高等学校	The Happy Prince
優良賞	谷崎 悠	広島県立福山誠之館高等学校	What Do You Eat for Lunch?
優良賞	西ノソミオガニザ	広島県立安芸府中高等学校	The Jar of Life
敢闘賞	青木 ミサキ	広島県立安芸府中高等学校	The Jar of Life
敢闘賞	岩本 奈々	ノートルダム清心高等学校	Talking Trees
敢闘賞	黒太 美桜	広島県立尾道北高等学校	Bringing Out the Best in Himself

レシテーション2・3年の部

	NAME	SCHOOL	TITLE
最優秀賞	西上 遥	広島県立広島高等学校	Invisible No Longer
優秀賞	渡邊 真優	広島県立高陽高等学校	The Great Dictator
優良賞	今田 えみり	広島県立世羅高等学校	Gender Equality Is Your Issue, Too
優良賞	入澤 瑠星	広島大学附属高等学校	Stay Hungry, Stay Foolish
敢闘賞	竹原 深月	広島大学附属福山中高等学校	Life in a Jar
敢闘賞	田坂 綾莉	広島県立広島高等学校	Invisible No Longer
敢闘賞	山口 愛花	広島県立尾道北高等学校	Stay Hungry, Stay Foolish

スピーチの部

	NAME	SCHOOL	TITLE
最優秀賞	村上 さゆり	広島県立安芸府中高等学校	Rethinking Our Use of Water
優秀賞	瀬尾 啓太	広島県立福山誠之館高等学校	Youth Participation in Politics to Improve Our Tomorrow
優良賞	サブコタ ムナ	広島県立安芸府中高等学校	Let's Say "NO!"
優良賞	天川 華	広島県立広島高等学校	The Meaning of Learning Languages
敢闘賞	西本 美優理	ノートルダム清心高等学校	Contrasting World Behind Us
敢闘賞	ダノ プリンセス	広島県立音戸高等学校	Why I Keep Going
敢闘賞	藤本 莉智	広島県立忠海高等学校	One Cola

学校優良賞

広島県立安芸府中高等学校

参加校教員のアンケート結果（一部抜粋）

質問項目：大会に向けてどのような取組をしたか。

- ・7月に1学年全体の生徒に授業内で周知。全クラスクラス予選。校内選考前に個別指導、その後校内選考を実施。選考通過者には個別指導を行った。
- ・事務局より案内があった時点で全生徒に授業および Google Classroom で周知し、希望者を募る旨を伝えた。
- ・学年主担当教員が各学年の希望生徒と面談し、出場部門や題材について相談した。
- ・部活動など個々の生徒の都合に合わせて個別に指導を行った。
- ・学校全体で周知をしたが、希望者が出ず、個人的に声をかけ、個別指導を行なった。
- ・1・2年生に、Google Classroom で参加を呼びかけ、2名の応募があった。
- ・7月に各クラスに掲示を行い、希望者を募った。また、個別に声掛けを行った。
- ・英語部で参加者を募り、3名のみでしたので、全員練習をして応募しました。個別指導です。
- ・4月当初よりパフォーマンス課題としてレシテーションを実施することを周知し、英コミュの授業で全員発表した。教科担当者がクラスから一人代表を選び、コンテストへの参加希望の有無を確認後、ALT の指導を経て録音→校内選考を経て応募した。選考通過者には、本選への参加意思を再確認後 ALT と協力しながら個別指導を行った（ただし、短期間での指導となった）。
- ・7月に1・2学年の生徒に周知。意欲のある生徒に個別指導を行った。
- ・7月末にコンテスト参加希望者を周知。参加希望のあった生徒1名に対し、夏休み中に個別指導を行った。
- ・7月に学年全体の生徒に Google Classroom で周知。希望者にはネイティブスピーカーの教諭が個別指導を行った。
- ・以前からスピーチコンテストに関心があった生徒に、個別に声掛けをして意向を聞き、出たいということだったため、要項が届いてからレシテーションかスピーチを決めさせた。
- ・コンテストの案内を生徒に行い、出場者を募る。出場者には、個別指導。
- ・1・2学年全体の生徒に授業で周知。希望者に英語科内で担当者を割り振り、個別指導を行った。
- ・1学期にスピーチコンテストを実施して校内選考とした。選考通過者には個別指導を行った。
- ・今年度は諸事情により募集の案内が7月中旬に把握されたため、参加を希望してきた生徒1名に対して個別指導を行った。来年度は学年全体に授業内で周知し、希望者を募る形で実施したい。日頃の授業の成果を発揮し、そして得意を伸ばしていける契機としたい。
- ・7月に1・2学年全体の生徒に掲示板、授業内で周知。希望者には個別指導を行った。
- ・英語コミュニケーションの授業で、クラス全員に暗唱テストを行い、そこで好成績を残した生徒を一次選考に応募させた。その際、ALT の先生に指導してもらった。一次選考が受かった後は、数回程度 ALT の先生に指導してもらったが、病欠をされたので後半からは個人で練習となった。
- ・7月に1・2学年全体の生徒に授業内で周知。希望者は規定数内であったため、選考は行わず、希望者に対して個別指導を行った。
- ・夏休み前に部員に声をかけ、参加希望の生徒と題材を決め、夏休みの練習スケジュールを立てました。夏休みに練習→録音をし、夏休み後に本選に向けて仕上げを行いました。

質問項目：スピーチ・レシテーションに係る普段の指導の中で工夫している点は。

書くために必要な語句や表現の指導

自分の考えが読み手に理解されるように段落構成や全体構成に留意して書かせる指導

発音、リズム、イントネーションなどの音声に関する指導

ジェスチャー、表情、アイコンタクト、姿勢などの非言語的手段に関する指導

自分の考えが読み手に理解されるように事実、意見、気持ちなどを整理して書かせる指導

ALT の活用

書き手の意向（レシテーション）や内容に関する自分の解釈（スピーチ）が聞き手に伝わるように音読させる指導

質問項目：コンテストに参加して生徒にどのような変化が見られたか。

- ・発音、リズム、イントネーションに対する意識が高まった。
- ・個々の英文の構造や英語の文章の流れを意識するようになった。
- ・書き手の意向（レシテーション）や内容に関する自分の解釈（スピーチ）が聞き手に伝わるような音読を意識するようになった。
- ・ジェスチャー、表情、アイコンタクト、姿勢に気をつけながら発表するようになった。
- ・自分の考えが読み手に理解されるように事実、意見、気持ちなどを整理して書こうとするようになった。
- ・自分の考えが読み手に理解されるように段落構成や全体の構成に留意して書こうとするようになった。
- ・ALT とのコミュニケーションが増えた。

質問項目：コンテスト全般に対する意見・要望。

- ・久しぶりの対面の大会運営、お疲れ様でした。3年ぶりでの本格的な開催となり、準備も大変だったのではないかと思います。そんな中でも丁寧に対応し、連絡をくださり、大変感謝しております。選考者以外の観覧（保護者や選考はされなかった生徒などの）についての対応の基準が欲しいと引率した教員からありました。
- ・本当にありがとうございました。事前の準備から当日の運営、事後の整理まで、たいへんお世話になりました。ありがとうございました。
- ・今回の出場者が特にそうだったのかもしれませんが、かつての、学習の動機づけとしての教育的イベントという牧歌的な側面が弱まり、より **competitive** な大会になっている印象を受けました。広島県全体がレベルアップしていると捉えれば悪いことではないのですが、一方で、多様な生徒にチャンスを与えるという意味では、運営の手間は増えるのですが、部門の再編は検討してもよいかもしれないと思いました。たとえば、レシテーションを学年で分けるのではなく、暗唱する文章の分量を200語程度に抑えたエントリーレベル部門を作って参加者の枠を増やしたり、スピーチも中国大会予選を兼ねる競争的部門と、学習成果の発表を主眼とする部門を分けて出場者が選べるようにするなどの方策がありえるかとは思いました。もちろん、大会の目的自体を、県内トップレベルの生徒を強化して、県全体としての頂点を引き上げることに据えるという選択肢もあると思います。また、全然別の話ですが、他校がどのような指導をされているかというのも気になるところです。学校優良賞を受賞された学校には、指導のノウハウを会報や翌年の研究大会で開陳していただくなどあってもよいかもしれません。余計な仕事を増やすことにはなるので、ノルマ化してはいけないと思いますが。ともかく、たいへん整然と運営していただき、感謝しかありません。あらためてありがとうございました。
- ・ここは、生徒たちが活躍できる場だと考えております。ぜひ来年も参加させてください。よろしく願います。
- ・運営にあたり、事務作業等大変だったと思います。ありがとうございました。大変、お疲れさまでした。
- ・運営等ご尽力いただき、大変ありがとうございました。参加生徒にとっても、「伝える」ということの意味を考える良い経験となったと思います。ただし、レシテーションからスピーチまでの全日程に参加するのは、生徒にとって負荷が高いと感じました。自分の発表部門以外は任意参加の形もありかな、と思いました。
- ・いつも運営をどうもありがとうございます。おかげさまで生徒が前向きに取り組んでいます。
- ・生徒の英語力を高める良い機会だったと思います。
- ・大変レベルの高いコンテストで、生徒のこれからの英語学習の励みとなる大会でした。運営に携わられた先生方、大変お世話になりました。ありがとうございました。要望といたしましては、入賞者の人数は3位までで良いのではないかと思います。入賞できなかった生徒の方が少ないことに違和感を覚えました。ご検討ください。
- ・大変有意義な機会だと思います。準備・運営等ありがとうございました。お疲れ様でした。
- ・全体としてレベルが高く、非常によい大会であったと思う。
- ・久々の対面での発表、そして審査が行われたが、やはり多くの点でオフラインでの大会の実施は意義のあるものだと感じた。たとえば、他の出場者の練習や発表の様子を見たりすることで刺激し合う

ことができ、より多くの学びを得ることができる点や、多くの人を前に発表に臨む経験ができる点、また審査員から大会後に直接コメントやアドバイスをうけることができるのも対面の大会ならではの点であった。そして、最高のパフォーマンスを引き出すのもその場の臨場感があってこそのものだと感じた。ぜひ来年度以降も対面での大会実施が続くことを願う。

- ・スムーズなコンテストの運営をありがとうございました。願わくば保護者の方が観覧でき、そして保護者・引率者の出入りが自由であればありがたいと感じました。

- ・どの学校の生徒もしっかりと練習を積んできていると感じた。お世話になりありがとうございました。

- ・生徒にとって貴重な挑戦と体験の場を提供してくださり、ありがとうございました。

令和5年6月30日

広島県高等学校教育研究会英語部会
関係高等学校長様

広島県高等学校教育研究会英語部会
部会長 高橋 真
(広島県立安芸府中高等学校長)

第60回広島県高等学校英作文コンテストの開催について

時下、ますます御清栄のこととお慶び申し上げます。日頃より本部会の活動に対しまして御協力をいただきありがとうございます。

さて、英語部会主催の英作文コンテストを次のとおり実施いたします。できるだけ多くの生徒からの応募があるように、英語科御担当の先生方の御協力・御配慮をいただきますようお願い申し上げます。

実施要項

- 1 目的 生徒の英語学力の向上と英語による発表能力の増進を図る。
- 2 応募規定
 - ※ 応募規定に沿っていない場合は欠格とし、採点対象から除外する。
 - a. 資格 広島県の国公立高等学校および高等専門学校(1～3学年)などの学校に在学する生徒。ただし、広島県高等学校教育研究会英語部会の会員が勤務している学校に在籍する生徒であること。(未加入の場合は審査当日までに会員登録と会費の納入を完了してください。完了していない場合は審査除外となります。)
 - b. 題 1年 “The moment I feel happiest”
2・3年 “How can I contribute to world peace?”
題の変更はしないこと。
 - c. 制限語数 1年は251語以上500語以内 2・3年は301語以上600語以内
(語数オーバー・不足は失格とする。)
 - d. 用紙設定 A4判で、余白を2cm、行数は42で設定すること。本文はワードで、英文フォントはTimes New Roman、日本語フォントはMS明朝、サイズは12とする。
 - e. 作品
 - 1) 未発表のものに限る。
 - 2) 一番上に題を明記し、本文末尾に必ず語数を記入する。(句読点は語数に入れない)
 - 3) 本文右上に、日本語で学校名・学年・氏名・年齢・性別を明記し、さらにローマ字で氏名を書きそえること。

(例) (タ イ ト ル)
○○立△△高等学校 1年・英語太郎・16歳・男 EIGO, Taro
 - f. 提出方法 在学校を經由してメールで提出する。
 - g. 締切 令和5年9月15日(金)必着
 - h. 版權 主催者に帰属する。
- 3 審査
 - a. 基準
 - 1) 全体の構成力
 - 2) パラグラフの構成力

3) 適切な文法・構文・語彙の使用

4) 内容

b. 審査

(1) 方法

予備審査：参加校で審査基準に従ってそれぞれの部門で予選を行い、それぞれ上位2作品を選んで送ってください。(予選に参加した人数をご報告ください)

本審査：英作文コンテスト実行委員会が審査し、1年の部と2・3年の部それぞれで9編を選んで入選とし、さらにその中から各4編を選んで入賞とする。

(2) 本審査日 10月6日(金)

(3) 会場 広島県立安芸府中高等学校(広島県安芸郡府中町山田5丁目1-1)

4 結果発表

応募者の在学学校へ10月下旬に通知する。

入賞・入選は次のとおりである。

最優秀賞 1名 優秀賞 1名 優良賞 2名 佳作 若干名

努力賞 若干名

優良校 (優れた作品を出品した学校)

入賞・入選者は『英語部会会誌第58号』(3月)で発表し、図書カードの副賞を授与する。

5 その他

1) 作品は電子メールでの送付のみ受け付ける。

とりまとめの先生が2作品を1つのワードファイルにまとめて、作品送付票(エクセル)とともにメールに添付し送付する。その際、作品の順番と作品送付票記載の順番が同じになるようにすること。メールの件名及びファイル名は、R5英作文(学校名)とすること。

(例) R5英作文(安芸府中)

*県立学校以外で参加される場合は要項や申込書のデジタルデータを送りますので、担当の先生はメールであらかじめお知らせください。

2) 送付先アドレス k-matsushimak954251@hiroshima-c.ed.jp
広島県立安芸府中高等学校内
英語部会事務局 松島 浩司

3) 応募作品の返却はしない。

(問い合わせ先)

広島県立安芸府中高等学校英語部会事務局
〒735-0004

広島県安芸郡府中町山田5丁目1-1

広島県立安芸府中高等学校 内

担当 久山 慎也

アドレス s-hisayamak975592@hiroshima-c.ed.jp

TEL 082-282-5311 FAX 082-282-5306

英作文作品応募校
校長様
英語部会員様

広島県高等学校教育研究会英語部会
部会長 高橋 真
(広島県立安芸府中高等学校長)

第60回広島県高等学校英作文コンテスト審査結果について（御報告）

時下、皆様におかれましてはますます御健勝のこととお慶び申し上げます。

平素より本部会の活動・運営に御理解御協力を賜り心より厚く御礼申し上げます。

さて、この度の第60回広島県高等学校英作文コンテストに御応募いただき、心より感謝申し上げます。本年度は県内20校から1,779編の出品があり、いずれも日々の学習の成果が表れた優秀な作品でした。10月6日（金）に審査を行った結果、入賞者は次のとおりです。

1年生の部

賞	英語表記	氏名	学校名
最優秀賞	First Prize	重岡 海人	広島大学附属高等学校
優秀賞	Second Prize	三島 悠生樹	広島大学附属高等学校
優良賞	Third Prize	川上 真澄	広島県立尾道北高等学校
優良賞	Third Prize	永見 智菜	広島県立廿日市高等学校
佳作	Prize for Fine Work	中村 駿仁	修道高等学校
佳作	Prize for Fine Work	城原 彩良	ノートルダム清心高等学校
佳作	Prize for Fine Work	河野 愛加	広島県立尾道東高等学校
努力賞	Prize for Effort	青木 ミサキ	広島県立安芸府中高等学校
努力賞	Prize for Effort	永川 由恵	広島県立尾道北高等学校
努力賞	Prize for Effort	赤坂 陽友	修道高等学校

2・3年生の部

賞	英語表記	氏名	学校名
最優秀賞	First Prize	西上 遥	広島県立広島高等学校
優秀賞	Second Prize	西 夏希	ノートルダム清心高等学校
優良賞	Third Prize	岡崎 啓太郎	広島県立東城高等学校
優良賞	Third Prize	江田 そよ花	広島県立尾道東高等学校
佳作	Prize for Fine Work	古澤 知夏	ノートルダム清心高等学校
佳作	Prize for Fine Work	佃 和寿	広島市立基町高等学校
佳作	Prize for Fine Work	木村 朱里	広島県立呉三津田高等学校
努力賞	Prize for Effort	高原 沙理楽	広島県立広島叡智学園高等学校
努力賞	Prize for Effort	渡邊 桔平	広島県立廿日市高等学校

*同一の賞内では応募順に表記しています。

優良校 ノートルダム清心高等学校

令和5年8月31日

各高等学校長様
各特別支援学校長様
英語部会員様

広島県高等学校教育研究会英語部会
部会長 高橋 真
(広島県立安芸府中高等学校長)

第15回広島県高校生英語ディベート大会兼全国大会予選会の開催について(御案内)

残暑の候 皆様には益々御清栄のこととお慶び申し上げます。平素から本部会の活動に御理解と御支援をいただき心より感謝申し上げます。

さて、標記の会を次の要領により開催いたします。校務等で御多忙中とは存じますが多数の御参加をいただきますようお願い申し上げます。

- 1 期日 令和5年10月29日(日)
- 2 会場 広島県立安芸府中高等学校
〒735-0004 安芸郡府中町山田5丁目1-1
TEL (082)282-5311 FAX (082)282-5306
- 3 日程 ※日程は参加チームの数によって変更の可能性があります
8:40 - 9:00 受付 (ジャッジ打ち合わせ8:40 ~)
9:00 - 9:15 開会式
9:25 - 10:30 第1試合
10:35 - 11:50 第2試合
11:50 - 12:35 昼食
12:35 - 13:45 第3試合
13:50 - 14:40 第4試合
15:00 - 15:45 決勝戦
15:45 - 16:15 審議
16:15 - 16:55 判定・表彰式・閉会式
- 4 参加申し込み期限 令和5年9月27日(水)必着
- 5 参加費 各チーム 5,000円(当日会場でお支払いください。)
- 6 参加申し込み方法 学校単位で別紙参加申込用紙に必要事項を御入力の上、次の(問い合わせ先)メールアドレスに期日までに申し込んでください。

(問い合わせ先) 広島県立安芸府中高等学校内
英語部会事務局 久山 慎也
メールアドレス: s-hisayamak975592@hiroshima-c.ed.jp
メール及びファイルの件名は、R5ディベート(学校名)としてください。
(例) R5ディベート(安芸府中)

*なお要項や申込書のデジタルデータは以下のドライブにもアップしてあります。

【英語部会事務局ドライブ】

<https://drive.google.com/drive/folders/159zPLaxChFjChu5obm4nnss0d2zu6yXf?usp=sharing>

7 その他

- (1) 本大会は対面式での実施を予定しておりますが、新型コロナウイルス感染にかかわる状況によって、ZOOMを用いて実施する可能性もあります。
- (2) 参加校の先生にはジャッジに加わっていただいておりますので、御協力をお願いします。なお、対面あるいはオンラインでの実施に関わらず審査の都合上ジャッジの先生には原則安芸府中高校に来ていただきます。
- (3) 英語部会の会員がいない学校で、生徒が参加される場合は事前に参加され、会費納入をお願いします。

補足資料 HEnDA のホームページより

Resolved: That the Japanese government should legalize gestational surrogacy.

日本政府は、代理出産を合法化すべきである。是か非か。

全国大会の期日： 2023 年 12 月 16 日(土)、 17 日(日)

Hiroshima English Debate Competition for High School Students in 2023

令和5年10月29日(日)

広島県立安芸府中高等学校

1. 論題 Resolution

Resolved: That the Japanese government should legalize gestational surrogacy.

日本政府は、代理出産を合法化すべきである。是か非か。

2. 日程 Schedule

8:40 - 9:20 Reception 受付 9:00 ~ Meeting for Judges ジャッジ打ち合わせ

9:30 - 9:50 Opening Ceremony 開会式

10:00 - 11:00 First Game 第1試合 (A校 対 B校) (C1校 対 D1校)

11:15 - 12:15 Second Game 第2試合 (B校 対 D1校) (A校 対 C1校)

(C2校 対 D2校)

12:15 - 13:00 Lunch Break 昼食

13:00 - 14:00 Third Game 第3試合 (D1校 対 A校) (B校 対 C1校)

(順位決定戦を行う場合)

14:15 - 15:15 Playoff 順位決定戦

15:25 - 16:10 Deliberation 審議

16:15 - 16:30 Celebration and Closing Ceremony 表彰式・閉会式

(順位決定戦を行わない場合)

14:15 - 15:00 Deliberation 審議

15:05 - 15:20 Celebration and Closing Ceremony 表彰式・閉会式

(1) 試合進行については別紙の通りとする。

(2) 3勝が1チーム出た場合にはそのチームを優勝とする。

(3) 2勝1敗が2チーム出た場合には、順位決定戦を行う。2勝1敗が3チーム出た場合にはポイントによる上位2チームが順位決定戦を行う。なお、順位決定戦における肯定側・否定側は先に直接対戦した際のものとは逆側とする。

(2) 組み合わせは、当日、抽選により決定する。

3. 審査員 Members of the Judging Panel

是澤 克哉 (広島修道大学) - Chairperson of the Panel 審査委員長

KORESAWA, Katsuya (Hiroshima Shudo University)

柏原 奨平 (広島市立舟入高等学校)

KASHIHARA, Shohei (Hiroshima Municipal Funairi Senior High School)

マーフィー パトリック (広島県立尾道東高等学校)

MURPHY, Patrick (Hiroshima Prefectural Onomichi Higashi Senior High School)

イーマ ライアン (広島県立広島高等学校)

EIMEAR, Ryan (Hiroshima Prefectural Hiroshima Senior High School)

スミス フローレンス (広島女学院高等学校)

SMITH, Florence (Jyogakuin Senior High School)

オサリバン ジェリー (広島女学院高等学校)

O'SULLIVAN, Jerry (Jyogakuin Senior High School)

4. 試合形式 Debate Format

Affirmative Constructive Speech	肯定側立論	(4分)
----- Preparation Time -----	準備時間	(1分)
Questions from the Negative	否定側質疑	(2分)
Negative Constructive Speech	否定側立論	(4分)
----- Preparation Time -----	準備時間	(1分)
Questions from the Affirmative	肯定側質疑	(2分)
----- Preparation Time -----	準備時間	(2分)
Negative Attack	否定側アタック	(3分)
Questions from the Affirmative	肯定側質疑	(2分)
Affirmative Attack	肯定側アタック	(3分)
Questions from the Negative	否定側質疑	(2分)
----- Preparation Time -----	準備時間	(2分)
Affirmative Defense	肯定側ディフェンス	(3分)
Negative Defense	否定側ディフェンス	(3分)
----- Preparation Time -----	準備時間	(2分)
Affirmative Summary	肯定側総括	(3分)
Negative Summary	否定側総括	(3分)
	計	42分

5. 対戦表 Competition Table

第1試合(First Game)	A校(A) vs B校(N)	C1校(A) vs D1校(N)
	会場① : 501 (A棟5階)	会場② : 502 (A棟5階)
第2試合(Second Game)	C1校(A) vs A校(N)	B校(A) vs D1校(N)
	会場① : 501 (A棟5階)	会場② : 502 (A棟5階)
	C2校(A) vs D2校(N)	
	会場③ : 402 (A棟4階)	
第3試合(Third Game)	B校(A) vs C1校(N)	D1校(A) vs A校(N)
	会場① : 501 (A棟5階)	会場② : 502 (A棟5階)
第4試合(Playoff) (順位決定戦を行う場合)	校(A) vs 校(N)	
	会場④ : 国際ホール (A棟5階)	

※本選対象校のアルファベットは、当日抽選で決定します。

A/B … 尾道東、広島より抽選 C1/D1 … 舟入、広島女学院より抽選
(C2、D2は各校の予選チーム)

6. 参加校及び参加生徒（全4校・予選6チーム） Participating Schools & Students

1

学校名	広島県立尾道東高等学校		
*代表者名（先生）	マーフィー パトリック (MURPHY, Patrick)		
#	氏名	ローマ字	学年
1	柏原 眺芽	KASHIHARA, Koga	2
2	川本 明音	KAWAMOTO, Akane	2
3	國本 陽太	KUNIMOTO, Haruta	2
4	栗岡 そら	KURIOKA, Sora	2
5	水津 羽弥	SUIZU, Umi	2
6	田頭 津楽	TAGASHIRA, Tsutano	2
7	高橋 愛海	TAKAHASHI, Ami	2
8	殿山 恵代	TONOYAMA, Ayaka	2
9	中村 樹	NAKAMURA, Itsuki	2
10	新田 遥	NITTA, Haruka	2
11	濱満 瑛太	HAMAMITSU, Eita	2
12	福井 聡太	FUKUI, Sota	2
13	近藤 美咲	KONDO, Misaki	1
14	千鶴 芽衣	SENTSURU, Mei	1

2（チーム1）

学校名	広島市立舟入高等学校		
*代表者名（先生）	柏原 奨平 (KASHIHARA, Shohei)		
#	氏名	ローマ字	学年
1	閔禹佳	EN, Yuka	2
2	岡田蓮	OKADA, Ren	2
3	佐々木六花	SASAKI, Rikka	2
4	森田嶺	MORITA, Rei	2
5	吉岡里笑	YOSHIOKA, Rie	2
6	米田千紘	YONEDA, Chihiro	2

3（チーム2）

学校名	広島市立舟入高等学校		
*代表者名（先生）	柏原 奨平 (KASHIHARA, Shohei)		
#	氏名	ローマ字	学年
1	吾郷万葉	AGOU, Mayo	1
2	伊藤未唯	ITOU, Mii	1
3	西村瑠莉	NISHIMURA, Ruri	1
4	額田慕華	NUKATA, Honoka	1
5	依田あおい	YORITA, Aoi	1

4

学校名	広島県立広島高等学校		
*代表者名（先生）	イーマ ライアン (EIMEAR, Ryan)		
#	氏名	ローマ字	学年
1	山口 裕輝	YAMAGUCHI Yuki	2
2	岡 俊輝	OKA Toshiki	2
3	田坂 綾莉	TASAKA Ayari	2
4	五閑 さくら	GOKAN Sakura	2
5	黒木 理宇	KUROKI Masataka	2
6	今野 紀佳	IMANO Norika	2
7	鉄本 陽菜	TETSUMOTO Hina	1
8	天川 華	AMAKAWA Hana	1

5（チーム1）

学校名	広島女学院高等学校		
*代表者名（先生）	スミス フローレンス (SMITH, Florence)		
#	氏名	ローマ字	学年
1	岡留 佑季	OKADOME Yuki	2
2	鄭 世希	JEONG Sehee	2
3	伊場田 莉奈	IBATA Rina	2
4	崎本 恵梨華	SAKIMOTO Erika	2
5	香川 知沙里	KAGAWA Chisato	2

6（チーム2）

学校名	広島女学院高等学校		
*代表者名（先生）	オサリバン ジェリー (O' SULLIVAN, Jerry)		
#	氏名	ローマ字	学年
1	大島 夕奈	OSHIMA Yuna	2
2	出木谷 香帆	DEKITANI Kaho	1
3	岡本 桃生	OKAMOTO Momoki	1
4	一野坪 彩	ICHINOTSUBO Aya	1

第15回広島県高校生英語ディベート大会



- 1 実施日 令和5年10月29日(日)
- 2 参加校 広島市立舟入高等学校、広島県立尾道東高等学校、広島県立広島高等学校、
広島女学院中学高等学校

3 会場 広島県立安芸府中高等学校
〒735-0004 広島県安芸郡府中町山田5丁目1-1 TEL 082-282-5311 FAX 082-282-5306

- 4 審査員
是澤 克哉 (広島修道大学) 審査委員長
マーフィー パトリック (広島県立尾道東高等学校)
柏原 奨平 (広島市立舟入高等学校)
イーマ ライアン (広島県立広島高等学校)
スミス フローレンス (広島女学院高等学校)
オサリバン ジェリー (広島女学院高等学校)

5 大会概要

広島県高校生英語ディベート大会が、令和5年10月29日(日)に行われました。論題「Resolved: That the Japanese government should legalize gestational surrogacy.

日本政府は、代理出産を合法化すべきである。是か非か。」に対して、各チームが立論・質疑・立論へのアタックに取り組みました。昨年度に続き、対面での開催となり、参加生徒は日頃の努力の成果を精一杯発揮しました。

(報告:広島県立安芸府中高等学校 久山慎也)

6 結果

優勝 広島県立尾道東高等学校

準優勝 広島市立舟入高等学校

(優勝校は広島県代表として12月16日(土)～17日(日)に開催された第18回全国高校生英語ディベート大会に出場)

ベストディベーター 黒木 理宇 (広島県立広島高等学校)

グッドディベーター 福井 聡太 (広島県立尾道東高等学校)

米田 千紘 (広島市立舟入高等学校)

香川 知沙里 (広島女学院高等学校)

第16回中国地区高等学校英語スピーチコンテスト
兼 第16回全国高等学校英語スピーチコンテスト中国ブロック予選 実施要項

- 1 趣 旨 わが国の高校生の英語による表現力を伸ばし、英語学習に対する関心を高めるとともに、国際的視野を持つ人材の育成に資する。
- 2 主 催 岡山県高等学校教育研究会英語部会
(中国地区高等学校英語スピーチコンテスト実行委員会)
- 3 後 援 広島県教育委員会、山口県教育委員会、島根県教育委員会、鳥取県教育委員会、岡山県教育委員会、山陽新聞社、NHK岡山放送局 (予定)
- 4 大会運営 中国地区高等学校英語スピーチコンテスト実行委員会
- 5 日 時 令和5年11月18日(土) 13:00~16:00
- 6 会 場 岡山県立岡山朝日高等学校
〒703-8278 岡山市中区古京町2番21号 TEL: 086-272-1271
- 7 大会概要 各県大会で選ばれた代表2名が中国大会に臨む。各県代表2名のうち少なくとも1名は、全国大会実施要項の「参加資格」に示された「第1部に参加できる者」とする。
- 8 論 題 自由(未発表のオリジナル原稿に限る)
ただし、県大会、ブロック大会、全国大会を通じて、スピーチの内容に大きな改変を加えてはいけない。
- 9 制限時間 4分30秒から5分30秒
- 10 審査基準 内容(Content)50点 英語(English)30点 態度(Delivery)20点 合計100点
Questions & Answers (Interaction) は実施しない。
- 11 審査員 ネイティブ・スピーカー3名を含む5名
- 12 応募方法
 - (1) 各県で選出された出場者については、各県高等学校英語教育研究団体が県別にまとめて、中国大会担当者宛てに送付する。(中国大会担当者の送付先は次頁に掲載)
 - ①「応募申込書」
参加生徒の在籍学校長が作成した応募申込書(公印必要)を郵送する。
 - ②「スピーチ原稿(A4判、縦)」
電子メールの添付ファイルとして送付する。「スピーチ原稿」には、学校名・生徒氏名・論題を明記する。
 - (2) 「応募申込書」は、中国大会担当者が各県担当者宛てに送付した「中国地区高等学校英語スピーチコンテスト応募申込書」を使用する。
 - (3) 応募されたスピーチ原稿の著作権は、主催者に帰属する。
- 13 申込期限 「申込書」及び「スピーチ原稿の電子ファイル」とも令和5年11月6日(月)必着
- 14 表 彰 上位3名を決定し、全員を表彰する。
- 15 全国大会の参加者
全国大会の要項5の(5)に「各ブロックは、第1部に1名以上の参加者を出すものとする。」とあることから、令和6年2月11日(日)に開催される全国大会に参加する者は、次の(1)、(2)に該当する者とする。

- (1) 第1部の参加有資格者であり且つ第1部への参加を希望する者のうち最上位の順位の者
- (2) 上記15の(1)に該当する者以外の者のうち最上位の順位の者

16 選考結果の通知

選考結果については、各県高等学校英語教育研究団体に通知する。(全国大会への出場権を獲得した者に不測の事態が起こった場合は、主催者で別途協議し決定する。)

[附 則]

1 参加資格

全国大会の参加資格に準じる。参加者は学校長の推薦を必要とする。参加者については、当該学校長は推薦の際、参加資格に抵触しないことを証するものとする。

2 制限時間

- (1) 計時は、生徒の第一声から開始する。
- (2) 4分、4分30秒、5分、5分30秒の時点で時間を示す。
- (3) 4分30秒に満たない場合、5分30秒を超えた場合には、減点する。

3 審査

- (1) 内容・英語・態度の観点を踏まえ、スピーチを総合的に審査する。
- (2) 得点を集計し、それを基に審査員が協議して、順位を決定する。

[中国大会担当者・応募申込書及びスピーチ原稿の提出先]

岡山県立倉敷中央高等学校 堀家 利沙

〒710-084 倉敷市西富井1384番地

TEL: 086-465-2559 FAX: 086-466-2832

E-mail: risa_horike@pref.okayama.jp

※ 申込の場合は、件名に「中国スピコン応募」と記入すること。

**第 16 回 中国地区高等学校英語スピーチコンテスト兼
第 16 回 全国高等学校英語スピーチコンテスト中国ブロック予選**

- 1 実施日 令和 5 年 11 月 18 日（土）
- 2 発表者 各県大会で選ばれた代表 2 名の高校生 10 名
- 3 会場 岡山県立岡山旭高等学校
〒703-8278 岡山市中区古京町 2 番 21 号 Tel: 086-272-1271

4 コンテストの概要報告

第 16 回中国地区高等学校英語スピーチコンテスト兼第 16 回全国高等学校英語スピーチコンテスト中国ブロック予選が、令和 5 年 11 月 18 日（土）に岡山県立岡山朝日高等学校を会場として開催されました。中国 5 県の各県大会で選ばれた代表 2 名、10 名が発表しました。出場生徒たちは、それまでの練習成果を発揮しようと懸命に頑張っていたそうです。広島県から出場した村上さゆりさん（広島県立安芸府中高等学校 2 年）と瀬尾啓太くん（広島県立福山誠之館高等学校 2 年）が優秀賞を受賞しました。参加し両名の努力に敬意を表しつつ、今後の英語部会の事業がさらに活性化されることを期待しています。

（報告：広島県立安芸府中高等学校 久山 慎也）

- ③ 異文化間協働活動の推進について（外国語科に限らない）
 （例）外国人との交流・姉妹校交流（Web会議、交流プログラム開発）について
 生徒の異文化体験・海外留学について
 グローバル・マインドの育成について
 SDGsやWWCに関わるプログラム開発について
- ④ 特に外国語科の指導に関連する内容について
 （例）英語の4技能5領域（聞く・読む・話す（やり取り/発表）・書く）の育成について
 主として英語を用いて英語の授業を行うことについて
 英語教員としての英語力の向上について
- ⑤ その他（ ）
- 3 英語部会の達成目標(2)についてお尋ねします。「学びの変革（主体的・対話的で深い学び）」と関わりのある内容に関して、どのような機会において研修に取り組みましたか。 次の①～⑨から選んでください（複数選択可）。
- ①校内の研究・研修 ②県教育委員会の研修会 ③他校の公開研究授業
 ④民間の研究団体や企業の研修会 ⑤国内・海外の大学の研修会
 ⑥自主研究グループの活動 ⑦教育に関する書物・雑誌購読やインターネットによる情報
 ⑧その他（ ）
 ⑨「学びの変革」と関わりのある内容に関して、特に研修はしていない。
- 4 現在、どのような分野・テーマの研修をしたいと思われていますか（複数選択可）。
 （ ）

【2】英語部会主催の1～3の高校生育成事業に関して、次の項目(a)～(c)について、それぞれお答えください。

- 1 英語スピーチ・レシテーションコンテスト（9月1日予選→9月17日本選）
- 2 英作文コンテスト（10月審査）
- 3 英語ディベート大会（10月29日）

- (a) ①生徒を参加させた、あるいは、生徒に案内した。
 ②生徒を参加させなかった、あるいは案内しなかった。
 ③本校の誰も開催されるのを知らなかった。
- (b) ②と答えられた学校は、その理由をお書きください。
- (c) この事業に来年度貴校の生徒を参加させるために、あるいはこの事業をさらによいものにするために、何が改善されなければなりませんか（課題）。

ご協力ありがとうございました。後日、会誌で結果を報告いたします。

英語教育及び研修に関するアンケート結果

調査の目的

- ① 英語部会の目標(1)(2)の達成状況を調査し、よりよい研修機会を提供するための資料とする。
 - (1) 「学びの変革（主体的・対話的で深い学び）」の趣旨を踏まえた授業展開や教材開発を行う。
 - (2) 「学びの変革（主体的・対話的で深い学び）」と関わりのある内容について研究・研修を行う。
- ② 英語部会の目標(3)に基づき実施している事業の課題を明らかにし、改善を図る。
 - (3) 高校生育成事業に応募する学校数・生徒数を増加させる。

回答数

38校 123名

アンケート項目

【1】本年度（4月～現在、または3月までの予定）の達成目標について該当する番号を○で囲んでください。

1 英語部会の達成目標(1)についてお尋ねします。次の①～④のうち1つを選んでください。

「学びの変革（主体的・対話的で深い学び）」の趣旨を踏まえた授業を展開した、あるいは教材を開発した。

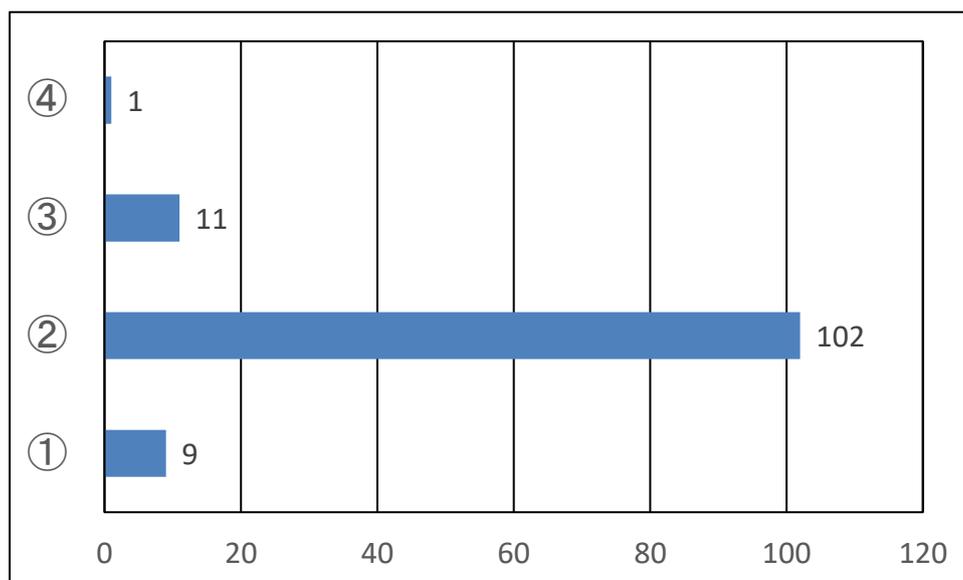
①大いに当てはまる

②ある程度当てはまる

③あまり当てはまらない

④まったく当てはまらない

集計結果

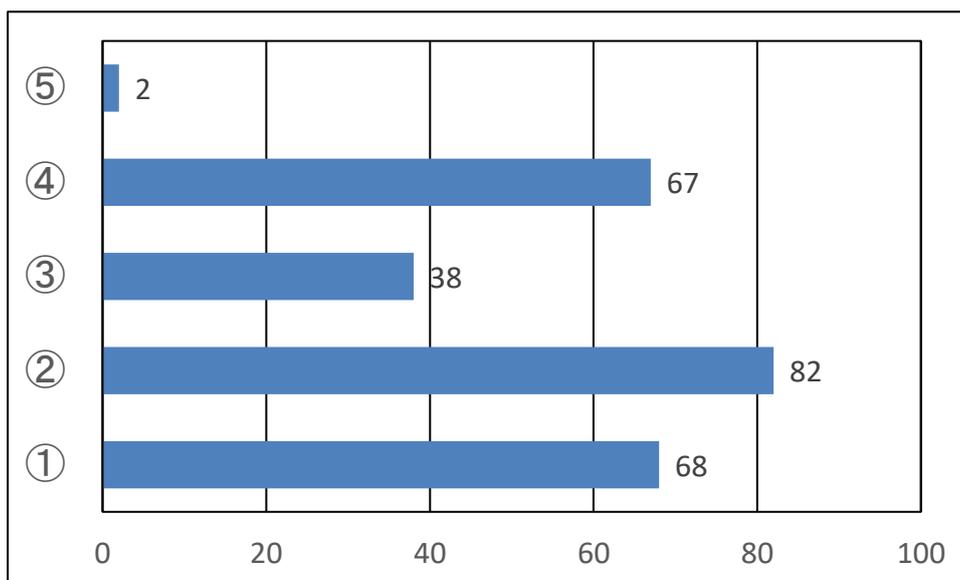


(数字は実数)

2 英語部会の達成目標(2)についてお尋ねします。「学びの変革(主体的・対話的で深い学び)」と関わりのある内容に関して、どのような内容について研究・研修に取り組みましたか。次の①～⑤から選んでください(複数選択可)。

- ① 目標・評価について(外国語科に限らない)
 - (例) 評価指標(ルーブリック)の開発・使用について
 - CAN-DO形式による学習到達目標の開発・使用について
 - 多様な評価方法(例えばパフォーマンス評価)について
 - 評価の観点について
- ② 教授法・指導法について(外国語科に限らない)
 - (例) 「能動的な学び」「主体的な学び」「アクティブ・ラーニング」について
 - 「課題発見・解決学習」「探究的な学び」「教科の枠を越えた学び」について
 - 「思考力・判断力・表現力等の育成」「言語活動の充実」について
 - 「見方・考え方」を働かせた授業について「ディベート活動」について
- ③ 異文化間協働活動の推進について(外国語科に限らない)
 - (例) 外国人との交流・姉妹校交流(Web会議、交流プログラム開発)について
 - 生徒の異文化体験・海外留学について
 - グローバル・マインドの育成について
 - SDGsやWWCに関わるプログラム開発について
- ④ 特に外国語科の指導に関連する内容について
 - (例) 英語の4技能5領域(聞く・読む・話す(やりとり/発表)・書く)の育成について
 - 主として英語を用いて英語の授業を行うことについて
 - 英語教員としての英語力の向上について
- ⑤ その他()

集計結果

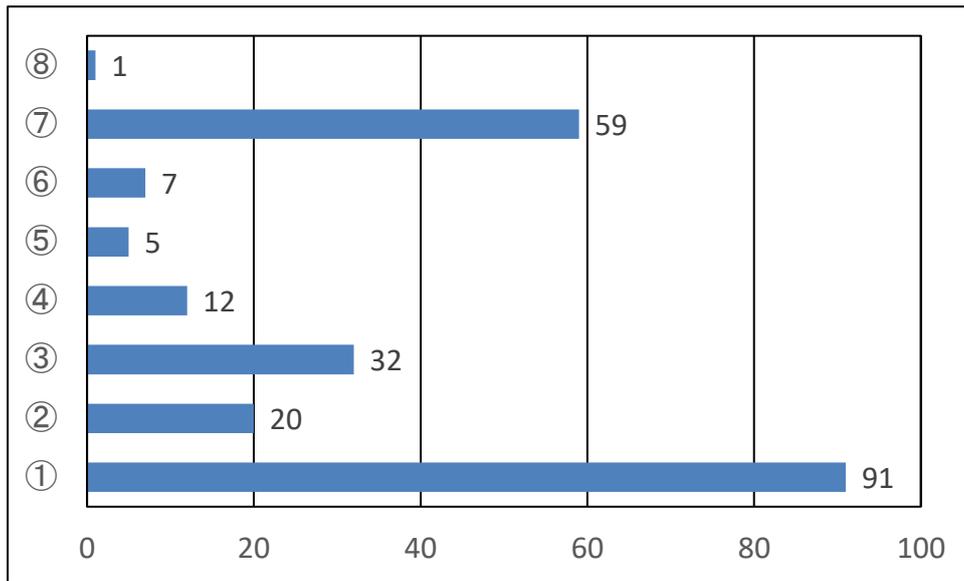


(数字は実数)

3 英語部会の達成目標(2)についてお尋ねします。「学びの変革(主体的・対話的で深い学び)」と関わりのある内容に関して、どのような機会において研修に取り組みましたか。次の①～⑨から選んでください(複数選択可)。

- ①校内の研究・研修 ②県教育委員会の研修会 ③他校の公開研究授業
- ④民間の研究団体や企業の研修会 ⑤国内・海外の大学の研修会
- ⑥自主研究グループの活動 ⑦教育に関する書物・雑誌購読やインターネットによる情報
- ⑧その他()
- ⑨「学びの変革」と関わりのある内容に関して、特に研修はしていない。

集計結果



(数字は実数)

4 現在、どのような分野・テーマの研修をしたいと思われていますか。

集計結果

[評価について]

- ・パフォーマンステスト(課題)における評価基準について。
- ・パフォーマンステストの効果的な運用とその評価方法。
- ・パフォーマンステスト。主体的な態度の評価資料や評価方法。
- ・パフォーマンステストに関する指導と評価。・新3観点における効果的な学習評価
- ・パフォーマンステストの評価。
- ・適切なパフォーマンステストの内容(作成)、計画、評価について。
- ・パフォーマンステスト、評価指標(ルーブリック)に関する研修。・観点別評価、指導と評価の一体化、パフォーマンス課題の実施について。
- ・主体性の評価方法。
- ・「主体的に学習に取り組む態度」の評価について。
- ・主体性の評価。
- ・主体的に学習に取り組む態度の評価について(妥当性を高めるための評価方法)。
- ・主学態の評価。

【評価について（続き）】

- ・主体的に学習に取り組む態度の評価材料（振り返りシートの活用）。
- ・英語における「主体的に学習に取り組む態度」の評価について。生徒のパフォーマンスや振り返りの見取り方を充実させるためにできること。
- ・観点別評価の例、工夫・改善について。
- ・評価の観点について。
- ・書くこと・話すことの評価。
- ・生徒の技能の見取り方について。
- ・伸長の測り方について。
- ・持続可能な評価方法について（小テスト・提出物をどう扱うか）。・生徒の学習意欲を高める授業づくり。

【教授法・指導法について】

- ・探究的な学び。
- ・目的場面状況に応じたやり取りの活動。
- ・複数の領域を関連付けた統合的言語活動。
- ・4技能を統合した授業。
- ・教科横断的な学び。
- ・自他を高める表現力の育成。
- ・授業改善。
- ・思考力・判断力・表現力向上を目指す授業づくり。
- ・言語習得の分野、特に言語野について詳しく研究したいです。そこから得られる知見を指導に活かせればと思います。
- ・授業方法（英語を用いた授業展開、四技能の統合）。
- ・Slow Learner に対してどのような補助を用いながら、英語を用いて授業を展開するか。
- ・文法指導とコミュニケーションのバランスの取れた授業づくり。
- ・AI を活用した愛のある英語教育の実践。
- ・AI を活用した授業。
- ・ICT の効果的な活用方法について。
- ・ICT について。
- ・英語授業における I C T 化の取り組みについて。
- ・生徒の主体的な学び、学びの個別最適化を加速させる ICT の活用。
- ・情報教育と外国語教育の横断的な研修（プログラミングを使って、機械翻訳を策定したり、機械翻訳が打ち出した英文を校閲する力をどのように生徒に着けさせるかについて）。・主体的・対話的で深い学びを促すタスクの在り方など。
- ・英語を使用させるリーディング指導の工夫。
- ・普遍的な問い。
- ・Logical Writing. ・英語教育をどのように国際交流活動につなげるか。
- ・英語以外の外国語教育の普及について（普通公立高校）の研修。
- ・帰国生徒に対する日本語教育の在り方についての研修。
- ・やり取り技能の育成について。
- ・言語活動の充実について。
- ・単元計画の作り方について。
- ・ルーブリックの作成、使用について。
- ・リスニング強化の指導法。
- ・ディベート、ディスカッションを授業内でどう扱うか。
- ・英語の授業は英語を用いて実施することについて。

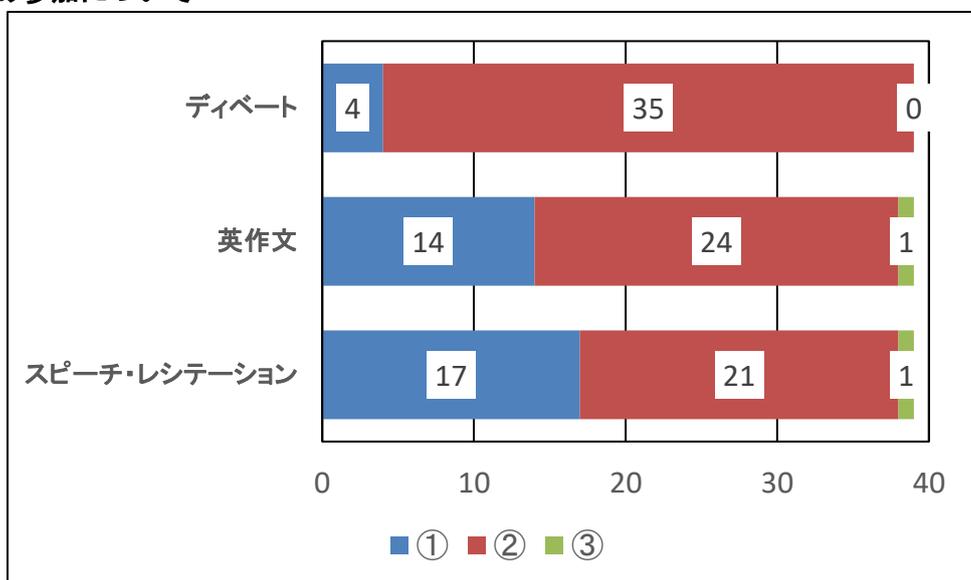
【2】英語部会主催の1～3の高校生育成事業に関して、次の項目(a)～(c)について、それぞれお答えください。

- 1 英語スピーチ・レシテーションコンテスト（9月17日）
- 2 英作文コンテスト（10月審査）
- 3 英語ディベート大会（10月29日）

- (a) ①生徒を参加させた、あるいは、生徒に案内した。
 ②生徒を参加させなかった、あるいは案内しなかった。
 ③本校の誰も開催されるのを知らなかった。
- (b) ②と答えられた学校は、その理由をお書きください。
- (c) この事業に来年度貴校の生徒を参加させるために、あるいはこの事業をさらによいものにするために、何が改善されなければなりませんか（課題）。

集計結果

(a) 生徒の参加について



(数字は実数)

(b) 生徒を参加させなかった、あるいは案内しなかった理由

[スピーチ・レシテーションコンテスト]

- ・閉校のため今年度は3年次のみであり、時期的に就職や進学（総合型・推薦）で忙しく十分な指導にいきつかなかったため。
- ・参加に向けて、授業内で指導をする時間を確保できないから。授業外での指導をする十分な人員を確保できないから。
- ・本来であれば、夏休み前に生徒に声かけをし、夏休みを使って準備をさせるべきところを、こちら側の不手際で案内できなかったため。
- ・生徒が参加できるレベルに到達していない。
- ・本校の生徒実態から考えて、参加が難しい、または希望者がいないと判断したため。
- ・ここ数年継続的に参加をさせていないため。

・興味がありそうな生徒に紹介したが、参加への意欲が足りなかった。また、参加者希望者がいても、指導する英語科教員に余力がないため。

・教科主任に相談したが、案内しないとの回答だったため。

・参加させなかったのではなく、そもそも案内をしていませんでした。申し訳ありません。ただ案内をしても現状参加した生徒はいたとしても非常に少なかったと予想されます。

・興味や関心がある生徒が見当たらなかったから。

・国際交流行事と重なったため指導できなかった。

[英作文コンテスト]

・閉校のため今年度は3年次のみであり、時期的に就職や進学（総合型・推薦）で忙しく十分な指導にいきつかなかったため。

・参加に向けて、授業内で指導をする時間を確保できないから。授業外での指導をする十分な人員を確保できないから。

・これまで希望者・参加者がなかったから

・本来であれば、夏休み前に生徒に声かけをし、夏休みを使って準備をさせるべきところを、こちら側の不手際で案内できなかったため。

・生徒が参加できるレベルに到達していない。

・本校の生徒実態から考えて、参加が難しい、または希望者がいないと判断したため。

・ここ数年継続的に参加をさせていないため。

・スピーチ・コンテストの指導に専念したため。

・希望者がいなかった。

・教科主任に相談したが、案内しないとの回答だったため。

・参加させなかったのではなく、そもそも案内をしていませんでした。申し訳ありません。ただ案内をしても現状参加した生徒はいたとしても非常に少なかったと予想されます。

・興味や関心がある生徒が見当たらなかったから。

・国際交流行事と重なったため指導できなかった。

・今年度は教員からこのような大会等に参加させようという声を通りづらかったため。

・3年生のみの在学中で、ほとんどの生徒が受験あるいはその準備と重なるため。

・生徒実態からして参加できない。

・〆切に間に合わなかった。

・ESS部で別のボランティアやフェスティバルに参加したため、機会を逃してしまった。

・学校内で十分に多面的な writing の評価ができているから。また英語論文という形で総合的な探究の時間に取り組んだ内容をまとめさせる授業が存在し、その点で外部との接続ができているから。

・校務多忙のため、参加させたとしても、十分な指導ができないため。

・農業科の生徒であるため。

・2学期が9月1日から始まるため、希望者がいる場合も準備に時間がかけられなかった。

[ディベート大会]

・自分自身の力量不足

・参加に向けて、授業内で指導をする時間を確保できないから。授業外での指導をする十分な人員を確保できないから。

・これまで希望者・参加者がなかったから。

・ディベートを行うまでの指導ができていないため。

・生徒が参加できるレベルに到達していない。

・本校の生徒実態から考えて、参加が難しい、または希望者がいないと判断したため。

- ・生徒のレベルが達していなかったため。
- ・英語技能検定受験の時期と被っており時間的余裕がなかったため。
- ・参加者希望者がいても、指導する英語科教員に余力がないため。
- ・スピーチ・コンテストの指導に専念したため。
- ・参加できるレベルにない、授業で取り組んでいない、指導が難しい（教員の負担が大きい、授業時間の制約がある等の理由から）。
- ・校内で指導できていないため。
- ・既に様々なプロジェクトに参加しているため。
- ・教科主任に相談したが、案内しないとの回答だったため。
- ・参加させなかったのではなく、そもそも案内をしていませんでした。申し訳ありません。ただ案内をしても現状参加した生徒はいたとしても非常に少なかったと予想されます。
- ・興味や関心がある生指導する時間が取れなかったため徒が見当たらなかったから。
- ・指導する時間が取れなかったため。
- ・今年度は教員からこのような大会等に参加させようという声を通りづらかったため。
- ・3年生のみの在学で、ほとんどの生徒が受験あるいはその準備と重なるため。
- ・生徒実態からして参加できない。
- ・スピーチコンテストの指導に専念するため。
- ・指導が間に合わない。
- ・ディベートに参加できるレベルの生徒が足りない。
- ・ESS 部で別のボランティアやフェスティバルに参加したため、機会を逃してしまった。
- ・校務多忙のため、参加させたとしても、十分な指導ができないため。
- ・農業科の生徒であるため。
- ・ディベートの指導を行っていないため。
- ・例年不参加のため。
- ・2学期が9月1日から始まるため、希望者がいる場合も準備に時間がかけられなかった。

(c) 改善すべき課題

[スピーチ・レシテーションコンテスト大会]

- ・今年度は本校（私自身）の問題であるため、特に改善点はないと思う。
- ・業務改善と人員の配置。
- ・授業内でのスピーキング活動の充実化。
- ・興味のある生徒への積極的な声かけ。
- ・通常の授業で定着させるべきことをまず確実に習得させる。
- ・授業等を通して様々な言語活動を体験させることで、英語学習に対するモチベーションを向上させる。
- ・体制での業務改善。
- ・スピーチ・レシテーションだけではなく、例えばあるテーマに沿ったプレゼンテーションのコンテストなど生徒が興味を持って積極的に参加したいものがあると良いと思いました。
- ・部会員を増やすこと。部会員がいないことで、生徒を育成事業へ参加させることができていない。しかしながら本校では、負担感が大きいことから、退会した教員に再度加入を求めることは、現実的に難しい。
- ・そもそもこのような機会に参加してみようという意欲と英語力を育てる指導を常日頃からしないといけないと感じています。
- ・普段の業務の忙しさや、受験指導の時間の縮小。
- ・生徒に案内したくて待っていたのですが、会費の納入のお知らせと同時に案内が来ていたのを見逃していました。忙しくてパッと見ても（今以上に）気づきやすい案内にしたいだけだと嬉しいです。

・レベルの高い題材であるため、もう少し身近な農業科の生徒でも受け入れやすい英文やテーマだと参加しやすくなると思われます。また、形式がプレゼンテーションだと参加しやすくなると思われます。

・参加した生徒が自身の評価を確認できるようになると、そこから自身の課題を見つけ出し、改善していけると思います。

・学校行事の関係で指導に時間がかけられないので、もう少し早めに取り組みを始めるべき。

[英作文コンテスト]

・今年度は本校（私自身）の問題であるため、特に改善点はないと思う。

・業務改善と人員の配置。

・本校の生徒に英語の力を十分につけきれていないことが課題です。もっと基本を徹底的に教え込むことをやっていきたいです。

・現状では短文レベルの英作文の指導が主となっており、生徒にまとまった英文を書かせる指導をしていない。

・通常の授業で定着させるべきことをまず確実に習得させる。

・授業等を通して様々な言語活動を体験させることで、英語学習に対するモチベーションを向上させる。

・生徒の英語による表現力・発信力の育成。

・まとまった分量の英作文を書いて提出させることを習慣化する、生徒の英語力を向上させる。

・部会員を増やすこと。部会員がいないことで、生徒を育成事業へ参加させることができている。しかしながら本校では、負担感が大きいことから、退会した教員に再度加入を求めることは、現実的に難しい。

・そもそもこのような機会に参加してみようという意欲と英語力を育てる指導を常日頃からしないといけないと感じています。

・普段の業務の忙しさや、受験指導の時間の縮小。

・昨年度まで1・2年生全員に書かせていましたが、もはや生徒本人が書いたものかの判断が難しく、今年度については希望者のみの参加としました。チャットGPTや翻訳ソフトがある今、これまで以上の難しさを感じています。

・教科内での情報の共有。

・英語科教員やALTに周知し、協力してもらう。また、パフォーマンステストや授業を通じて話したり書いたりする機会を増やす。

・多くの他のコンテストや大会との差別化が図りづらい。どうしても現在の業務+αという認識になる。テーマ設定など、生徒の日々の授業や課題意識に沿ったものがハードルを下げることにつながるのではないかと考える。

・学校行事の関係で指導に時間がかけられないので、もう少し早めに取り組みを始めるべき。

[ディベート大会]

・まず、教員によるディベート体験や指導方法について学ぶ場が必要では。ハードルが高いと感じる教員も多いのでは？

・業務改善と人員の配置。

・本校の生徒に英語の力を十分につけきれていないことが課題です。もっと基本を徹底的に教え込むことをやっていきたいです。

・ESS部の生徒や興味のある生徒などを中心にディベートチームを校内で作る。

・通常の授業で定着させるべきことをまず確実に習得させる。

・授業等を通して様々な言語活動を体験させることで、英語学習に対するモチベーションを向上させる。

- ・単語、文法等の基礎固めを徹底するとともに、表現力の向上が必要不可欠である。授業内でやり取りの機会を増やすことを検討する。
- ・体制での業務改善。
- ・生徒の英語による表現力・発信力の育成。
- ・英語部会員を増やす。
- ・ポスター等を作成して、生徒に周知しやすいようにする。
- ・競技用ディベートを指導できる教員がない。
- ・他校との合同チームなど、学校単位以外でも参加できるようにする。
- ・部会員を増やすこと。部会員がないことで、生徒を育成事業へ参加させることができていない。しかしながら本校では、負担感が大きいことから、退会した教員に再度加入を求めることは、現実的に難しい。
- ・そもそもこのような機会に参加してみようという意欲と英語力を育てる指導を常日頃からしないといけないと感じています。
- ・普段の業務の忙しさや、受験指導の時間の縮小。
- ・年間を通した指導計画の必要性。
- ・英語科教員やALTに周知し、協力してもらおう。また、パフォーマンステストや授業を通じて話したり書いたりする機会を増やす。
- ・大変お世話になりました。
- ・多くの他のコンテストや大会との差別化が図りづらい。どうしても現在の業務+ α という認識になる。テーマ設定など、生徒の日々の授業や課題意識に沿ったものがハードルを下げることにつながるのではないかと考える。
- ・授業でディベートに取り組むことで関心を持たせる。
- ・大会の様子の動画をYouTube 配信するなど、生徒にとって身近なものにする工夫。
- ・学校行事の関係で指導に時間がかけられないので、もう少し早めに取り組みを始めるべき。

令和5年度広島県高等学校英語部会
公開研究授業 各地区の実施情報

(1) 広島西地区

- ア 期日：令和5年11月17日(金)
イ 場所：広島県立広島井口高等学校
ウ 内容
・教科等：外国語・英語コミュニケーションⅡ
・授業者：広島県立広島井口高等学校 教諭 福嶋 春代

(2) 広島東地区

- ア 期日：令和5年11月7日(火)
イ 場所：広島県立安芸府中高等学校
ウ 内容
・教科等：外国語・英語コミュニケーションⅠ
・授業者：広島県立安芸府中高等学校 教諭 折田 実保

(3) 呉地区

- ア 期日：令和5年11月21日(火)
イ 場所：広島県立呉三津田高等学校
ウ 内容
・教科等：外国語・英語コミュニケーションⅠ
・授業者：広島県立呉三津田高等学校 教諭 長谷川 直人

(4) 尾道・三原地区

- ア 期日：令和5年11月8日(水)
イ 場所：広島県立尾道北高等学校
ウ 内容
・教科等：外国語・論理表現Ⅱ
・授業者：広島県立尾道北高等学校 教諭 棗田 菜穂美

(5) 福山地区

- ア 期日：令和5年11月14日(火)
イ 場所：広島県立油木高等学校
ウ 内容
・教科等：外国語・英語コミュニケーションⅡ
・授業者：広島県立油木高等学校 教諭 福好 功伸

(6) 三次地区

- ア 期日：令和5年11月8日(水)
イ 場所：広島県立三次中学校・高等学校
ウ 内容
・教科等：外国語・英語コミュニケーションⅡ
・授業者：広島県立三次高等学校 教諭 今中 浩二

Rethinking Our Use of Water

広島県立安芸府中高等学校

村上さゆり

MURAKAMI, Sayuri

First of all, I want to ask you some questions. Do you think water is unlimited? Have you ever thought about running out of water? In Japan, we can easily use large amounts of water anytime we want. We can take a bath every day and we can also drink water that comes straight from the tap. Our access to clean and safe water is assured. Because of these things, you might never worry about it. However, when I visited Indonesia, where I lived for 5 years, I was surprised to see how different people there felt about water. Let me tell you about it.

When I first visited Indonesia, I was really excited because I had never been abroad. I was wondering about how exciting my life would be there. I stayed at my grandmother's house, which was not at all what I expected and completely different from the Japanese styles I was used to. The bathroom was the most surprising for me. I saw that there was no shower or bathtub. There was a squat toilet, which is similar to a Japanese style toilet and a large bucket filled with clean water. Even the toilet didn't have a flush. I had no idea how to flush it or take a shower there. My mother taught me to use a water dipper to scoop water from the bucket. An even more surprising thing: When we went to a shopping mall, I wanted to go to the toilet, so I asked my mother, "Can I go to the toilet?" She said, "Sure. But take this with you." What she gave me was money. "Why should I bring money?" I asked. She answered, "You have to put the money into that box after you use the restroom." Isn't that interesting? In Japan, we don't have to pay when we want to use restrooms. On the other hand, in Indonesia, they charge us to use them because clean water is more difficult to obtain. Through this experience, I realized that it is not a usual thing in some countries to have easy access to clean water.

However, I discovered that a lot of people were not aware of this problem. According to an OECD report in 2022, more than 40% of the world's population suffer from water scarcity, and that number is expected to increase. If these conditions continue, about half of the world's population will face water scarcity by 2050. This is not just an issue for other countries. It involves everyone, including us. Although Japan is rich in water, when we look at other countries, there are so many places that cannot get access to any water, let alone clean, drinkable water.

To start considering the issue, let's think about what we can do to use our precious water wisely. As a nation, I think that we all need to be more conscious of the amount of water we use. According to the Japanese government, the average amount of water used by a Japanese person is 314 liters per day. This is twice the global average! Do you leave the water running when you brush your teeth or when washing dishes? 6 liters of water will be lost when you keep the water running for about 30 seconds when brushing your teeth. 60 liters of water will be lost when you keep the water running for about 5 minutes when washing the dishes. This is often repeated every day! This adds up to a very large amount of water. To save water, we can do some little things such as turning off the tap when brushing our teeth, washing dishes or taking a shower. That's simple, right? It can also save you money when paying the water bills. Saving water has many benefits.

What I want you to remember the most is that water is not an unlimited resource, and

we are truly blessed to have it. We have to protect our precious natural resources for the future. I don't want to live in a world that cannot provide enough water for life or a world that has conflicts over water everywhere. I think you will agree with this. We need to reflect on how we have been using water and rethink how we're going to use it in the future to achieve a world where no one has to suffer for water.

Youth Participation in Politics to Improve Our Tomorrow

広島県立福山誠之館高等学校
瀬尾啓太
SEO, Keita

When you hear the word “politics”, what impression do you have? These days, we often hear in the news about the low voting rate among young people. Politics is not only losing young people’s interest but also it is sometimes treated as something we should avoid talking about. However, can we keep being indifferent to politics?

I live in the small town of Jinsekikogencho. The town is famous for beef called Jinsekigyū or rich nature. I love this town. However, this town is struggling with some problems. This town’s population is only 8100 and 50% of people are over 65 years old. The town’s administration carries out many policies but, unfortunately, the town’s population is still decreasing.

When I was a junior high school student, I had a class about politics. At first, I had no interest in politics because I thought it was none of my business. Gradually, however, I started to realize the importance of being involved in politics. I researched the town's policies and what companies in my town were doing. At the same time, I found the town was in a dire situation. In fact, some supermarkets were closed, and the number of vacant houses was increasing. Moreover, the elementary school I was going to was combined with another school 3 years before I entered. These things happened within the last 15 years. Therefore, I began to worry that the town would become further deserted. Then, I considered some ways to revitalize the town from various perspectives. Finally, I came to think seriously about the future of our town whose population was declining. At the end of the class, I and one of my classmates joined the town council as a representative of our class. We suggested our opinion of using rich nature and adopting “agritourism” to our town. “Agritourism” means tourism which focuses on agricultural experiences to encourage the town’s economy. Through this experience, I realized that being involved in politics or thinking about my town’s future is not someone else's business, but my own, and actively giving opinions would improve the future of my town.

In Japan, we can see a similar situation to Jinsekikogencho. There are more older people than younger people so policies which are advantageous for older generations tend to be adopted more commonly. However, we have some ways to deal with this situation. Last year, the age at which we could vote was lowered from 20 to 18. This made the number of young voters increase and made it easy to adopt policies which are beneficial to young people. This is a good chance to express our opinions to make our future better. However, in Japan, the young generation’s voting rate is still low.

We are not living only in the present. We must create a future for those 20 or 30 years from now, or even longer. I think voting is one of the ways to reflect our opinion on politics. Giving our opinion and having an interest in politics will make our future better.

I want to ask you again. What impression do you have of politics? Some people may think politics is so complicated that they cannot change policies by themselves. However, joining politics actively and not regarding politics as someone else's problem will contribute to a comfortable future. I’ll be 18 next year. At that time, I’m going to vote for our future. Shall we reconsider politics as a way to create our tomorrow?

The moment I feel happiest

国立広島大学附属高等学校

1 年・重岡海人・15 才・男

SHIGEOKA, Kaito

I feel happiest when I go to the beach. When I was a little child, my parents would often take me to the beach. It was only a three-minute walk from my house. I still remember crossing the train tracks with my parents on the way there. When I got there, I would look for colorful shells, some sea creatures, and treasures that had washed up on the shore.

When I was 9 years old, our family moved to a new house. I was sad to leave my old house but fortunately, our new house was even closer to the beach. The three-minute walk to the beach became a 30-second walk.

On my first day at my new school, I was worried about making friends. Luckily, I did. That day, my new friends and I went to the beach. We had a blast. We even caught a stingray by ourselves. After that experience I loved the beach even more. My friends and I still had fun at the beach after we went on to junior high school. We played badminton, volleyball, soccer and so on. We occasionally had a bonfire, too. I will never forget those memories.

This year I entered high school. I was separated from my close friends from junior high and elementary school. It took me a few weeks, but I was able to make some close friends here. Before the summer break, my new friends at high school came to my beach. I was very happy that they came all the way because I live far away from most of them. My old friends joined us, too. My old and new friends got along so quickly. We rode our kayak and had a barbeque. We also enjoyed fireworks. It was incredibly fun. My friends and I had a severe pain on the skin the next day because of the sunburn, but it was totally worth it.

I believe that the sea has the power to bring people together. The Chinese character for the sea is in my name. To live up to my name, I want to become a person who can connect people and create happiness. From the many great experiences that I have had at the beach since I was little, I can say that with confidence; the moment I feel happiest is when I am at the beach.

(395 words)

How can I contribute to world peace?

広島県立広島高等学校
2 年・西上 遥・16 歳・女
NISHIGAMI, Haruka

What is “world peace?” A world where there are no more wars and conflicts? A world where nuclear weapons do not exist? Or a world where everyone can eat delicious food until they are full? The first step to build world peace is clearly defining “peace.” “Peace”, I think, is a world where important people and human rights are protected and there is no fear of losing them. There should be as many ideas of “world peace” as there are people in the world. It can never be defined by one meaning. A world without wars and conflicts, a world without nuclear weapons, and a world where everyone can eat delicious food. They are all part of peace. We have to make an effort to realize all those ideas of peace. So, what can we do?

First, we should learn about the world. There are people who suffer from conflict, can't eat enough food, and barely survive every day. However, most people feel them like a distant story that has nothing to do with them. I have also had such a thought before, but one of my experiences has greatly changed my thoughts so far. Last year, I took part in an activity for high school students called “*global miraijuku in Hiroshima*”, which was related to peace-making at a teenager's level. While there, I heard about the story of a Filipino girl who lived alone as a street child. She said, “It was hard to stand by myself in the absence of people around me to rely on or support me.” People who live in difficult situations are never unrelated to us. It's not a story about another world far away. Therefore, we need to deepen our knowledge and interest in the world. You will find many chances in your daily life. The important thing is to think about our experience of daily life by connecting it to the world. If you are indifferent to people other than yourself, you can't build peace.

We should also try to learn about the world critically. When I heard the story of JICA staff, the words, “You make a wrong judgment from the perspective of the world that is too dramatic,” left a very strong impression on me. When we think about the current state of the world, we often learn it by emphasizing the part that is a challenge. However, I was taught that in order to know the world correctly, it is important to see the world from various angles with a wide perspective.

The most important thing is to take a small step. Each person should have their own approach to peace. What we can do is share our thoughts for peace without thinking too hard, but using what we like and find fun as the gateway. In my case, I am really into seeing beautiful towns around the world in photo books, so when I find an attractive one, I search about the town that is far away. Then, I talk about them with foreign teachers in online English conversation lessons. This will be my starting point, and from now on, I am going to gain knowledge about more unfamiliar areas and deepen my understanding.

Today, some of the many challenges tend to be thought impossible to solve. However, I believe that if each person approaches the solution in various ways, the world will be better little by little. You do not have to think too much. Just take your own action. It is an important step towards a world where everyone's world peace is realized.

(597words)

令和5年度広島県高等学校教育研究会英語部会概要

部会長	高橋 真(安芸府中高等学校)	
副部会長	神笠 薫子(豊田高等学校校長)	原田 豊之(油木高等学校校長)
理 事	森政 美和(府中高等学校主幹教諭)	飯田 弘哉(加計高等学校教諭)
	坂口 直美(呉昭和高等学校教諭)	永田 大介(賀茂高等学校教諭)
	名越 幸江(東城高等学校教諭)	花田 真貴(尾道北高等学校教諭)
庶 務	松島 浩司(安芸府中高等学校教諭)	折田 実保(安芸府中高等学校教諭)
	頼近 真理(安芸府中高等学校教諭)	加藤 賢一(安芸府中高等学校教諭)
監 事	岡寄 友一(音戸高等学校教頭)	坂本 真寛(尾道東高等学校指導教諭)
事務局長	久山 慎也(安芸府中高等学校指導教諭)	
会 員 数	322名 <県立270名、市立14名、私立23名、国立15名>	
会 費	1人当り 500円	

広島県高等学校教育研究会英語部会会則

第1条【名称と所在地】 本会は、広島県高等学校教育研究会英語部会と称する。また、この会の所在地を会長の勤務する高等学校に置く。

第2条【目的】 本会は、英語教育に関し、広島県教育委員会の指導のもとに、学習指導 要領等の法令に則って自主的・創造的な教育研究活動を行い、本県高等学校、特別支援学校及び高等専門学校教育関係者の資質向上と学校教育の振興を図ることを目的とする。

第3条【事業】 本会は、前条の目的を達成するために、次の事業を行う。

- 1 研究会、講習会、講演会等の開催
- 2 英語教育に関する研究、調査等
- 3 会員並びに生徒の研究および発表の助長
- 4 研究紀要の発信
- 5 他の語学教育研究団体との連絡協力
- 6 その他、本会の目的を達成するために必要と認められる事項

第4条【会員】 本会は、本会の趣旨に賛同する県内高等学校、特別支援学校及び高等専門学校の教職員で構成し、支部を広島西、広島東、呉、尾三、福山、三次の各地区に置く。

第5条【入会及び退会】 ① 会員は除名される若しくは退会の申し出がない限り継続するものとする。

② 新規に会員になろうとする者は、役員会において別に定めるところにより本会会長に申し出なければならない。

③ 退会する者は、役員会において別に定めるところにより本会会長に申し出なければならない。

第6条【役員】 本会には次の役員を置く。

- | | |
|-----------|-----|
| (1) 会長 | 1名 |
| (2) 副会長 | 若干名 |
| (3) 理事 | 若干名 |
| (4) 庶務・会計 | 若干名 |
| (5) 監事 | 2名 |

1 会長及び副会長は、校長の職にある者でなければならない。

2 役員を選任は、次のとおりとする。

(1) 会長、副会長、監事は役員会において選任する。

(2) 理事は各地区支部より選任する。

(3) 庶務、会計は会長が委嘱する。

第7条【職務】 役員職務は次のとおりとする。

1 会長は、本会を代表し、会務を統括する。

2 副会長は、会長を補佐し、会長に事故あるとき又は会長が欠けたとき、その職務を代理し又は代行する。

3 理事は会務を分担処理する。

4 庶務、会計は本会の庶務及び会計の事務を行う。

5 監事は、会計を監査する。

第8条【任期】 任期については次の通り定める。

- 1 役員の任期は1年とする。ただし、補欠又は増員により選任された役員の任期は、前任者又は現任者の残任期間とする。
- 2 役員は、再任されることができる。
- 3 役員は、辞任又は任期満了後においても、後任者が就任するまではその職務を行わなければならない。

第9条【役員会】 会長は、本会の運営等について協議が必要な場合は、第6条に定める役員会を招集する。

第10条【総会】 本会は毎年1回、総会を開き、重要な事項につき協議する。総会は役員会をもって代行することができる。

第11条【会計】 本会の運営経費は、会費ならびに寄付金、その他の収入で充当し、その額は役員会において別に定める。

第12条【会計期間】 本会の会計年度は、4月1日に始まり翌3月31日に終わる。

第13条【事務局】 本会にかかる庶務を処理するため、役員会において別に定める学校に事務局を置く。

第14条【除名】 会員が、教育研究会及び本会の目的に反する行為を行った場合、役員会の4分の3以上の賛成により除名することができる。

第15条【会則改正】 この会則の改正は役員会の4分の3以上の賛成及び広島県高等学校教育研究会の承認を得なければならない。

(その他)

第16条 この会則に定めるもののほか、本会の運営に必要な事項は、会長が定める。

第17条 この会則は、平成12年7月1日より施行する。

附 則 この会則は平成19年7月1日より施行する。

附 則 この会則は平成21年7月1日より施行する。

附 則 この会則は平成23年4月1日より施行する。

附 則 この会則は平成24年11月1日より施行する。

附 則 この会則は令和2年7月1日より施行する。